

専門科目
(摂食・嚥下障害コース開
講)

【科目名】	摂食・嚥下障害学総論		【担当教員】	井上 誠、辻村 恭憲、真柄 仁
【授業区分】	専門科目	【授業コード】	Dbmhs101	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	
【単位数】	2	【コマ数】	15	
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
<p>本講義は、疾患にもとづく検査と診断から、リハビリテーションにいたるまでの臨床科目というだけでなく、生活弱者を支える栄養支援や環境設定などの幅広い知識を必要とする。十分な事前の学習を必要とするが、不明な点は講義中、講義後に積極的に質問をするなどの対応をしてもらいたい。</p>				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
遅刻・無断欠席のないようにすること。授業中の質問や疑問などを積極的に言い、授業への主体的な参加を心がけること。				
【講義概要】				
(目的)				
<p>正常な摂食嚥下機能及びその神経性制御機構を学んだ後、神経機序からみた嚥下障害の理解へとつなげる。種々の疾患を原因とする摂食嚥下障害の病因、複雑な構造と機能障害について病態生理学的な理解を深める。摂食嚥下障害の検査及びリハビリテーションについての知識を深め、臨床応用へとつなげるだけでなく、一生涯健康に食べることの意義について考えていく。専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。</p>				
(方法)				
主として配付資料及び参考図書を使用して講義を行う。毎回の確認テストを行い、回収後に解答の解説を行う。				
【一般教育目標(GIO)】				
<p>摂食嚥下障害の病態を把握するために、摂食嚥下機能に関する正常像と障害像について理解を深める。 摂食嚥下障害の臨床アプローチを把握するために必要な検査、診断、リハビリテーションの流れを理解する。</p>				
【行動目標(SB0)】				
<p>摂食嚥下機能の正常像と病態像を説明する。 摂食嚥下機能障害者に対する臨床的アプローチの手段を説明する。 摂食嚥下障害の病態像や疾患を取り巻く社会状況に関する新たな知見について説明する。</p>				
【教科書・リザーブドブック】				
毎回資料を配付する。				
【参考書】				
摂食嚥下リハビリテーション第4版(才藤栄一・植田耕一郎監修) 医歯薬出版				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
成績評価基準は、本学学則・授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規程に従う。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				100					100
評価 指標	取り込む力・知識			100					100
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢								0

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	総論	講義(井上)	準備:これまで学修してきた摂食嚥下障害に関する内容の整理.	220
2	摂食嚥下機能に関わる神経解剖	講義(井上)	準備:摂食嚥下,解剖,生理等の知識の整理. 事後:授業内容の整理(摂食嚥下機能に関わる末梢神経解剖).	220
3	摂食嚥下機能を支える中枢メカニズム	講義(井上)	準備:摂食嚥下,解剖,生理等の知識の整理. 事後:授業内容の整理(摂食嚥下機能に関わる中枢神経解剖).	220
4	摂食嚥下障害の原因疾患総論	講義(井上)	準備:これまでに学修してきた関連領域(摂食嚥下障害)の知識の整理. 事後:授業内容の整理(原因疾患).	220
5	摂食嚥下障害の診断に必要な検査とその方法.	講義(井上)	準備:これまでに学修してきた関連領域(摂食嚥下の検査)の知識の整理.事後:学修内容の知識の整理ならびに臨床への展開をまとめる.	220
6	障害の考え方と摂食嚥下リハビリテーション	講義(井上)	準備:これまでに学修してきた関連領域(リハビリテーション論)の知識の整理. 事後:学修内容の知識の整理ならびに臨床への展開をまとめる.	220
7	摂食嚥下リハビリテーションに必要なチームアプローチと各職種の役割	講義(井上)	準備:これまでに学修してきた関連領域(チームアプローチと多職種連携)の知識の整理 事後:学修内容の知識の整理ならびに臨床への展開をまとめる.	220
8	加齢に伴う摂食嚥下機能の減退	講義(井上)	準備:これまでに学修してきた関連領域(摂食の加齢変化)の知識の整理. 事後:学修内容の知識の整理ならびに臨床への展開をまとめる.	220

9	脳血管疾患に伴う摂食嚥下障害	講義（井上）	準備：これまでに学修してきた関連領域（脳血管疾患の摂食嚥下障害）の知識の整理。 事後：学修内容のまとめ。	220
10	神経疾患に伴う摂食嚥下障害	講義（井上）	準備：これまでに学修してきた関連領域（神経疾患の摂食嚥下障害）の知識の整理。 事後：学修内容のまとめ。	220
11	呼吸機能と呼吸器疾患に伴う摂食嚥下障害	講義（辻村）	準備：これまでに学修してきた関連領域（呼吸器疾患の摂食嚥下障害）の知識の整理。 事後：学修内容のまとめ。	220
12	小児（発達障害、先天異常）の摂食嚥下障害	講義（辻村）	準備：これまでに学修してきた関連領域（小児の摂食嚥下障害）の知識の整理。 事後：学修内容のまとめ。	220
13	消化器疾患に伴う摂食嚥下障害	講義（真柄）	準備：これまでに学修してきた関連領域（消化器疾患の摂食嚥下障害）の知識の整理。 事後：学修内容のまとめ。	220
14	頭頸部腫瘍に伴う摂食嚥下障害	講義（真柄）	準備：これまでに学修してきた関連領域（頭頸部腫瘍の摂食嚥下障害）の知識の整理。 事後：学修内容のまとめ。	220
15	これからの摂食嚥下リハビリテーションの向かうべき方向	講義（井上）	準備：これまでに学修してきた関連領域の知識の整理ならびに臨床への展開に向けた課題を考える。 事後：学修内容のまとめ。	220

【科目名】	口腔咽喉頭機能学		【担当教員】	山村 千絵
【授業区分】	専門科目	【授業コード】	ds 102	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	yamamura@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	8	(オフィスアワー) 月～金 10:30～12:00
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
口腔・咽頭・喉頭及び周辺領域の解剖・生理について、これまで系統的に学んでこなかった学生を主な対象として、摂食嚥下に関連した専門科目を学ぶために必要となる高度な内容へと発展させていく講義とします。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
少人数で双方向型の授業を展開します。授業には積極的に参加しましょう。				
【講義概要】				
(目的)				
摂食嚥下機能に関連した頭頸部・顔面・口腔・咽頭・喉頭の構造と機能を中心に講義する。また、摂食嚥下の神経機構や、咀嚼に関連する味覚や唾液分泌の生理について講義する。生体の構造・機能は実に巧妙に美しくできていることに、驚きと感動を知り、さらなる探究心を奮い起こそう。本講義により、主に基礎研究に臨む姿勢が涵養されることも期待する。 ●当該科目と学位授与方針等との関連性： 専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。				
(方法)				
主として配付資料やパワーポイントスライド等を用いて講義を行う。また、研究者として不可欠なクリティカルシンキング（自律的に能動的に考える能力と態度、自分なりの意見を持ち、建設的・積極的に思考すること、物事を論理的に批判的に捉えて思考すること）を鍛えるために関連領域の論文を抄読する。その他、受講生の希望に沿った講義を組み立てて実施する。 試験・レポートのフィードバック方法： コメントを付して返却する。				
【一般教育目標(GIO)】				
・生体機能、特に口腔機能を科学的視点で捉えるために、それぞれの機能発現における神経系の仕組みを理解する。				
【行動目標(SB0)】				
・摂食嚥下機能に関連した、口腔・咽頭・喉頭の構造と機能を詳細に説明できる。 ・摂食嚥下の神経機構について最近の知見も含めて説明できる。 ・味覚や唾液分泌のしくみを説明でき、臨床的トピックスと関連付けて考察できる。 ・関連領域の論文を客観的に理解し評価することができる。				
【教科書・リザーブドブック】				
特に指定しない、プリント等を配付する。				
【参考書】				
金子芳洋（訳）摂食・嚥下メカニズムUPDATE 構造・機能からみる新たな臨床への展開 医歯薬出版 2006年 ¥5,940（税込） 才藤栄一（監）摂食嚥下リハビリテーション 第3版 医歯薬出版 2016年 ¥8,360（税込） 山田好秋（著）よくわかる摂食・嚥下のメカニズム 第2版 医歯薬出版 2013年 ¥4,620（税込）				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規程に従う。 成績評価は、記述式試験80%、講義途中で課すレポート等課題の達成度20%の割合で実施する。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		80		20					100
評価 指標	取り込む力・知識	80		20					100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	関連領域のトピックス 聴講学生に合ったテーマのトピックス紹介と討議	講義 課題解決型学習	予習：これまでに学んだ関連領域の知識の整理を行う。 復習：学修した内容の復習と臨床や修士研究への展開を考え、レポートにまとめる。	90分
2	口腔・咽頭・喉頭の構造と機能 口腔・咽頭・喉頭の解剖と生理 ～一步進んで…～	講義 課題解決型学習	予習：これまでに学んだ関連領域の知識の整理を行う。 復習：学修した内容の復習と臨床や修士研究への展開を考え、レポートにまとめる。	90分
3	咀嚼運動 咀嚼運動の仕組み、神経性制御 最近の知見	講義 課題解決型学習	予習：これまでに学んだ関連領域の知識の整理を行う。 復習：学修した内容の復習と臨床や修士研究への展開を考え、レポートにまとめる。	90分
4	味を感じる仕組み・味覚障害 味覚受容機構、味覚の意義、おいしさとは、味覚 障害の種類 臨床的トピックス	講義 課題解決型学習	予習：これまでに学んだ関連領域の知識の整理を行う。 復習：学修した内容の復習と臨床や修士研究への展開を考え、レポートにまとめる。	90分
5	嚥下運動 嚥下運動の仕組み、神経性制御 最近の知見	講義 課題解決型学習	予習：これまでに学んだ関連領域の知識の整理を行う。 復習：学修した内容の復習と臨床や修士研究への展開を考え、レポートにまとめる。	90分
6	歯・口腔・顎・顔面の診察法 歯・口腔・顔面の症状の表現方法 歯・口腔・顔面の診察法	講義 課題解決型学習	予習：これまでに学んだ関連領域の知識の整理を行う。 復習：学修した内容の復習と臨床や修士研究への展開を考え、レポートにまとめる。	90分
7	唾液の働きと分泌機構 唾液の生理的機能、分泌機構 唾液を使って行う各種検査 臨床的トピックス	講義 課題解決型学習	予習：これまでに学んだ関連領域の知識の整理を行う。 復習：学修した内容の復習と臨床や修士研究への展開を考え、レポートにまとめる。	90分
8	関連領域の論文抄読、論文の書き方 聴講学生が選択した興味ある論文の抄読 論文の書き方の基本	講義 課題解決型学習	予習：これまでに学んだ関連領域の知識の整理を行う。 復習：学修した内容の復習と臨床や修士研究への展開を考え、レポートにまとめる。	90分

【科目名】	摂食・嚥下障害評価学		【担当教員】	高橋 圭三、松村 博雄
【授業区分】	専門科目	【授業コード】	Dh 103	(メールアドレス)
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	takahashik@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	2	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 高橋:平日木曜以外の16:50~18:20
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
<p>摂食・嚥下コースの1年生必修. 嚥下障害の基礎知識を持ち合わせ、評価法を学ぶ意欲のある院生であること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・レポートにはコメントを付して返却する。 ・クラス発表ではコメントを述べる。 				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
<ul style="list-style-type: none"> ・講義中に配布された資料は、以降の講義にもできる限り持参のこと。 				
【講義概要】				
(目的)				
<p>摂食・嚥下を評価する各種検査法／評価尺度について、実践的で具体的な方法を学ぶ。VF、VEなどの画像検査評価法では画像解析練習を行う。種々の検査評価法により解明された正常嚥下の理解を深め、正確な検査・評価を実施する力を養い、患者の総合的な情報収集・適切な目標設定と治療プログラムを導くための知識を身につける。専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。</p>				
(方法)				
<p>摂食嚥下障害領域の臨床には非常に重要な評価の講義である。積極的な講義への参加をしてもらいたい。</p>				
【一般教育目標(GIO)】				
<ul style="list-style-type: none"> ・摂食・嚥下を評価する各種検査法／評価尺度について理解を深める。 ・各種評価法で得られる正常嚥下の特徴を正しく理解する。 				
【行動目標(SB0)】				
<ul style="list-style-type: none"> ・各種嚥下評価法を用いての正常嚥下の動態や特徴がわかる。 ・各種嚥下評価法の長所・短所を把握し、目的にあった機器や検査法の選択ができる。 ・嚥下造影検査や内視鏡検査で得られた画像の解析ができる。 				
【教科書・リザーブドブック】				
<p>プリントを配布する</p>				
【参考書】				
<p>日本摂食嚥下リハビリテーション学会医療検討委員会：嚥下内視鏡検査の手順2012改訂. 日摂食嚥下リハ会誌16(3) http://www.jsdr.or.jp/doc/ 日本摂食嚥下リハビリテーション学会医療検討委員会：嚥下造影の検査法（詳細版）日本摂食嚥下リハビリテーション学会医療検討委員会2014年度版. 日摂食嚥下リハ会誌18(2)http://www.jsdr.or.jp/doc/</p>				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
<p>本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。 レポート50%、クラス発表50%の割合で評価する。</p>				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				50	50				100
評価 指標	取り込む力・知識			50	50				100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	オリエンテーション、 各種嚙下評価法 科目の概要と今後の予定 クラス発表の分担決定 講義：各種嚙下評価法の特徴	講義(高橋)	予習：摂食嚙下障害概要を学習して おくこと。復習：配布されたプリン トに目を通すその他：発表テーマの 設定、スケジュールリング等	予習100分 復習等120 分
2	正常嚙下のバイオメカニズム 講義：健常者の嚙下の生理	講義(高橋)	事後学修：講義ノートと資料の復習	予習100分 復習120分
3	嚙下造影検査画像解析① 演習：画像解析演習(正常例)	講義(高橋)	準備学修：正常嚙下の動態	予習100分 復習120分
4	嚙下造影検査画像解析② 演習：解析結果報告とディスカッション	講義(高橋)	準備学修：嚙下造影検査の手順のバ リエーション	予習100分 復習120分
5	嚙下造影検査評価の手順 講義：嚙下造影検査の考え方と実施手続き	講義(高橋)	準備学修：嚙下造影検査の手順のバ リエーション	予習100分 復習120分
6	嚙下造影検査：造影剤と放射線(高橋) 講義：造影剤の特徴と放射線の危険性	講義(高橋)	事後学修：講義の復習と関連文献閲 覧 クラス発表準備	予習100分 復習120分
7	嚙下内視鏡検査(高橋) 講義：嚙下内視鏡検査の手順 演習：画像解析練習	講義(高橋)	準備学修：嚙下内視鏡検査について 基礎知識を得ておく クラス発表準備	予習100分 復習120分
8	筋電図(高橋) 講義：筋電図で見る嚙下の特徴	講義(高橋)	復習：講義で配布された筋電図の論 文を通読しておく クラス発表準備	予習100分 復習120分

9	感覚系の評価(高橋) 講義：嚥下の感覚系評価の現状	講義(高橋)	事後学修：講義で紹介された論文に目を通す クラス発表準備	予習100分 復習120分
10	超音波検査(高橋) 講義：超音波検査の特徴	講義(高橋)	事後学修：講義で紹介された論文に目を通す クラス発表準備	予習100分 復習120分
11	頸部聴診法、嚥下圧検査(高橋) 講義：頸部聴診と嚥下圧検査による評価	講義(高橋)	事後学修：講義で紹介された論文に目を通す クラス発表準備	予習100分 復習120分
12	クラス発表 発表：例 プロセスモデルについて	発表など(高橋)	レポート提出とレポート内容の発表(クラス発表)	予習100分 復習120分
13	その他の評価(高橋) 講義：スクリーニング検査の意義と限界、患者のQOLに立った評価法など	講義(高橋)	事前学修：各種スクリーニング検査の特徴について再確認	予習100分 復習120分
14	摂食・嚥下に関する中枢の役割(松村) 運動系伝導路	講義(松村)	準備学習： 中枢神経系の解剖学	予習100分 復習120分
15	摂食・嚥下に関する中枢の役割(松村) 感覚(知覚)系伝導路	講義(松村)	準備学習： 中枢神経系の解剖学	予習100分 復習120分

【科目名】	摂食・嚥下発達障害学		【担当教員】	山村 千絵、高橋 圭三	
【授業区分】	専門科目	【授業コード】	Dbh 104		
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修		
【単位数】	1	【コマ数】	8		
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
<p>新生児～乳幼児～小学生にいたるまでの、子どもの発達に関する知識が必要です。発達の概略について復習して授業に臨むことを希望します。</p>					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
<p>少人数で双方向型の授業を展開します。授業には積極的に参加しましょう。</p>					
【講義概要】					
(目的)					
<p>成人の嚥下機能とは異なり、成長や発達といった面を考慮した、摂食・嚥下リハビリテーションの評価及び治療方法について学習する。</p> <p>●当該科目と学位授与方針との関連性： 専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。</p>					
(方法)					
<p>主として配付資料やパワーポイントスライド等を用いて講義を行う。</p> <p>前半の基礎系は山村が、後半の臨床系は高橋が担当する。</p> <p>試験・レポートのフィードバック方法： コメントを付して返却する。</p>					
【一般教育目標(GIO)】					
<ul style="list-style-type: none"> ・摂食嚥下機能やその障害、リハビリテーションについて、成人と小児の違いについて理解する。 ・小児の摂食嚥下リハビリテーションを実施する際は、その病態、原因、全身状態を把握することから始まり、摂食嚥下に関わる機能の発達程度や機能不全の部位も見極める必要があることについて理解する。 					
【行動目標(SB0)】					
<ul style="list-style-type: none"> ・摂食嚥下障害を持つ小児は、基礎疾患や合併症があることが多く、栄養や呼吸状態などを常に考慮しながら摂食嚥下リハビリテーションを行う必要があることについて説明できる。 ・摂食嚥下障害を持つ小児の食事介助を実践できる。 					
【教科書・リザーブドブック】					
<p>特に指定しない。プリント等を配付する。</p>					
【参考書】					
<p>小児の摂食嚥下リハビリテーション 第2版、 田角勝 向井三恵編著 医歯薬出版 2014年7月 5,500円(税込)</p>					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
<p>本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規程に従う。</p> <p>成績評価は、記述式試験80%、講義途中で課すレポート20%の割合で実施する。</p>					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		80		20					100
評価 指標	取り込む力・知識	80		20					100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	基礎 小児の摂食嚥下機能の仕組み 摂食嚥下器官の形態 成長に伴う口腔・咽頭の形態変化 摂食嚥下の神経機構と脳・神経系の発達	講義 課題解決型学習 (山村)	予習：これまでに学んだ関連領域の知識の整理を行う。 復習：学修した内容の復習と臨床への展開を考え、レポートにまとめる。	90分
2	基礎 摂食嚥下の発達 哺乳運動と発達 口腔領域の形態成長と機能発達 嚥下運動の発達	講義 課題解決型学習 (山村)	予習：これまでに学んだ関連領域の知識の整理を行う。 復習：学修した内容の復習と臨床への展開を考え、レポートにまとめる。	90分
3	基礎 摂食嚥下機能の発達 経口摂取の発達過程 咀嚼機能の発達 食事の自立と口腔機能	講義 課題解決型学習 (山村)	予習：これまでに学んだ関連領域の知識の整理を行う。 復習：学修した内容の復習と臨床への展開を考え、レポートにまとめる。	90分
4	基礎 疾病のある小児の摂食嚥下障害 さまざまな基礎疾患 疾病のある小児の摂食嚥下機能の発達 合併症の管理	講義 課題解決型学習 (山村)	予習：これまでに学んだ関連領域の知識の整理を行う。 復習：学修した内容の復習と臨床への展開を考え、レポートにまとめる。	90分
5	臨床 小児の摂食嚥下機能の評価・検査・診断 評価・診断の仕方 さまざまな検査法 誤嚥の診断・評価	講義 課題解決型学習 (高橋)	予習：これまでに学んだ関連領域の知識の整理を行う。 復習：学修した内容の復習と臨床への展開を考え、レポートにまとめる。	90分
6	臨床 小児の摂食嚥下リハビリテーションの基本 食事姿勢の基本とリハビリテーション 機能発達程度に応じた食物形態の基本と調理 訓練の実際	講義 課題解決型学習 (高橋)	予習：これまでに学んだ関連領域の知識の整理を行う。 復習：学修した内容の復習と臨床への展開を考え、レポートにまとめる。	90分
7	臨床 小児の口腔ケア 小児の摂食嚥下障害における栄養の考え方 栄養評価とその対応 経管栄養法と経腸栄養剤	講義 課題解決型学習 (高橋)	予習：これまでに学んだ関連領域の知識の整理を行う。 復習：学修した内容の復習と臨床への展開を考え、レポートにまとめる。	90分
8	臨床 小児の摂食嚥下障害と外科的対応 リスク管理 その他	講義 課題解決型学習 (高橋)	予習：これまでに学んだ関連領域の知識の整理を行う。 復習：学修した内容の復習と臨床への展開を考え、レポートにまとめる。	90分

【科目名】	摂食・嚥下予防学		【担当教員】	高橋 圭三
【授業区分】	専門科目	【授業コード】	db 105	(メールアドレス)
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	takahashik@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	8	(オフィスアワー) 木曜以外の平日5限
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
<p>日本における摂食嚥下障害の問題として、人口問題や死因などが関係し、地域包括ケアシステムなどが重要になってきている。本科目は、摂食嚥下障害の予防に重点を置き、地域で活躍する言語聴覚士等の職種の者や、それらの領域に関心を持つ者に選択して欲しい。「口腔介護」と関連する事項が多く、合わせて受講することが望ましい。</p> <p>【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】 提出されたレポートは、コメントを記載し返却します。</p>				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う 				
【講義概要】				
(目的)				
<p>高齢者における摂食嚥下障害には、脳血管障害等の疾患に関連し出現するものから、廃用症候群として問題が起こるものもある。そのような高齢者の加齢変化を理解するとともに、フレイルやサルコペニアなどの理解を深める。また、日本や地域における摂食嚥下障害の問題を考察し、効果的な予防法を提供できる力を身につける。</p> <p>【学位授与の方針と当該授業科目の関連】 専門領域を超えて深く問題を探求する姿勢を培うとともに、多様な課題を発見分析し自ら解決する能力を培う。</p>				
(方法)				
<p>スライド、破風資料を中心に講義を行う。 レポートはコメントをつけて返却する。</p>				
【一般教育目標(GIO)】				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 高齢者の加齢変化を理解する ・ フレイル、サルコペニアを理解する。 ・ 日本や各地域における摂食嚥下障害の問題を考えることができる。 ・ 適切な食事姿勢、食事介助方法を理解できる。 ・ 摂食嚥下障害の予防法を実践できる。 				
【行動目標(SBO)】				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 実際に食事姿勢を整え、食事介助を適切に実践できる。 ・ 実際に摂食嚥下障害予防法を実践できる。 				
【教科書・リザーブドブック】				
特に指定しない、プリント等を配布する。				
【参考書】				
<p>・ 若林 秀隆 著、編集、高齢者の摂食嚥下サポート -老嚥・オーラルフレイル・サルコペニア・認知症-, 新興医学出版社, 2017年・藤本 篤士 (著, 編集), 糸田 昌隆 (著, 編集), 葛谷 雅文 (著, 編集), 若林 秀隆 (著, 編集), 老化と摂食嚥下障害「口から食べる」を多職種で支えるための視点, 医歯薬出版</p>				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
<p>本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。 発表もしくは課題レポート30%、最終レポート70%の割合で評価する。</p>				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				100					100
評価指標	取り込む力・知識			100					100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	日本における摂食嚥下障害の問題 日本の死因における摂食嚥下障害との関連性、超高齢社会等の人口問題	講義	口腔介護の復習	220分
2	各地域における摂食嚥下障害の問題 新潟県や村上市などの人口状況、地域包括ケア、多職種連携	講義	学修した内容の復習	220分
3	高齢者の問題 口腔～喉頭の加齢変化	講義	解剖、生理学の復習、正常例の理解	220分
4	高齢者の摂食嚥下障害の問題 フレイル、サルコペニア	講義	学修した内容の復習と臨床への展開を考える	220分
5	摂食嚥下障害における食事介入 適切な食事環境整備、食事姿勢、食事介助方法	講義	学修した内容の復習と臨床への展開を考える	220分
6	摂食嚥下障害の予防法 摂食嚥下訓練法の各種紹介、訓練法の予防的観点	講義	各種訓練法の復習	220分
7	摂食嚥下訓練予防法の実践 実際の予防法を実践する	講義	学修した内容の復習と臨床への展開を考える	220分
8	実践報告会 実際の予防法の効果などを検証する	講義	学修した内容の復習と臨床への展開を考える	220分

【科目名】	摂食・嚥下訓練・治療法（基礎）		【担当教員】	倉智 雅子、松村 博雄、木戸 寿明
【授業区分】	専門科目	【授業コード】	dbms106 (メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	倉智：mkurachi@iuhw.ac.jp	
【単位数】	1	【コマ数】	8 (オフィスアワー) 倉智：講義日の講義後1時間	
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
頭頸部領域の解剖について、学部レベルの基礎知識を有していること。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
学修に取り組む姿勢も評価の対象となるため、積極的な質問や意見交換が望まれる。				
【講義概要】				
(目的)				
「学位授与の方針と当該授業科目の関連」：専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。				
(方法)				
主として、配付資料とトピックに合わせた動画を使用して講義を行います。 演習については授業の中で正しい解釈について解説します。 「試験・レポートのフィードバック方法」倉智：レポートについては、コメントを付して返却します。 松村：理解度確認テストにコメントを付して返却。 木戸：ディスカッション・ディベートの中で、現状の理解度の把握と必要な助言を行います。				
【一般教育目標(GIO)】				
摂食嚥下障害の臨床の土台となる知識と技能を習得するために、ヒトの鰓弓（咽頭弓）性器官の変遷、転用、痕跡など形態形成の特徴をとらえて、摂食・嚥下に関する形態と機能を理解する。また、口腔ケアに必要な知識と技術を修得する。				
【行動目標(SBO)】				
口腔の診察：口腔内の観察の仕方を説明でき、歯科領域特有の専門用語を用いた表現ができる。さらに一般的な歯口清掃の仕方のみならず、高齢者障害のための口腔ケア実習を通し、義歯の取り扱い、口腔内清拭、舌の清掃、口腔乾燥のケア等について実施できる・演習を通し、顎顔面領域のレントゲン画像の見方や、診療報酬・介護報酬のしくみが概説でき、医療事故等の事例分析ができる。・嚥下に関与する感覚系・運動系の解剖生理および嚥下に関与する延髄や上位中枢の役割がわかる・嚥下障害症例のビデオ画像解析ができる（演習）				
【教科書・リザーブドブック】				
倉智：プリントを配付予定 松村：プリントを配付予定 木戸：プリントを配付予定				
【参考書】				
倉智：才藤栄一，植田耕一郎監修：摂食嚥下リハビリテーション 第3版，医歯薬出版，2016，¥7,600				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
成績評価基準は、本学学則・授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規程に従う。 3人の担当者の評価を倉智50%（うち、レポート40%、学修に取り組む姿勢10%）、松村25%、木戸25%の割合で合わせて総合的に評価を行う。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				90				10	100
評価 指標	取り込む力・知識			70					70
	思考・推論・創造の力			20					20
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力								
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	嚥下の神経機構	講義(倉智)	予習：これまでに学習した嚥下器官の解剖(特に神経系)と健常嚥下の整理を復習しておく 復習：講義ノート、講義資料の確認	220
2	嚥下反射の惹起機構：感覚受容器の特性	講義(倉智)	予習：これまでに学習した嚥下器官のうち、特に口腔と咽喉頭の解剖を復習しておく 復習：講義ノート、講義資料の確認	220
3	嚥下の異常所見とその解釈	講義・演習(倉智)	予習：嚥下造影で観察できる健常嚥下の動態および異常所見の確認 復習：演習を通して気付いたことや疑問点をディスカッションで発言できるようまとめておく。	220
4	嚥下障害症例の嚥下造影画像解析とディスカッション	講義・討議(倉智)	予習：討議参加への準備 復習：講義ノート、講義資料の確認	220
5	鰓弓性器官 咀嚼、哺乳、嚥下、発声の発生学	講義(松村)	準備学習：初期発生について	220
6	脳神経Ⅴ、Ⅶ、Ⅸ、Ⅹ 脳神経と咀嚼、嚥下、発生のかかわり	講義(松村)	準備学習：脳神経の解剖学	220
7	全身状態の評価 バイタルサイン、摂食嚥下に関わる身体機能評価	講義(木戸)	準備学習：臨床検査学の復習	220
8	口腔の診察 口腔内観察法と歯科専門用語、口腔ケアの理論と実際	講義(木戸)	準備学習：臨床歯科医学の復習	220

【科目名】	摂食・嚥下訓練・治療法（臨床）		【担当教員】
【授業区分】	専門科目	【授業コード】	Db107
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修
【単位数】	1	【コマ数】	8
【担当教員】 (メールアドレス) ashiga@iuhw.ac.jp (オフィスアワー) 火曜日 12:15～12:50			
【注意事項】 (受講者に関わる情報・履修条件) 科目履修登録者 摂食・嚥下訓練・治療法（基礎）を受講していることが望ましい。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 臨床において工夫、実践していることを述べられるよう準備しておくこと。			
【講義概要】 (目的) 専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。 (方法) 配付資料を使用して講義を行います。 また、必要に応じてディスカッションを取り入れます。 レポートにはコメントを付して返却します。			
【一般教育目標(GIO)】 ・摂食嚥下障害の各種訓練および治療を修得するために、各種訓練法・治療法の原則、理論について理解する。 ・摂食・嚥下障害の各種治療・訓練法について、その特徴や効果を知り、臨床場面に応用できる ・個々の患者にあった治療訓練計画を科学的根拠に基づいて立案できる。 【行動目標(SB0)】 1) 摂食嚥下障害の訓練法を列挙できる。 2) 摂食嚥下障害の各訓練法の適応を説明できる。 3) 摂食嚥下障害の各訓練法の方法を説明できる。 4) 患者の病態に合わせた評価、治療／訓練法の選択ができる。			
【教科書・リザーブドブック】 日本摂食嚥下リハビリテーション学会医療検討委員会：訓練法のまとめ2014版．日摂食嚥下リハ会誌18(1)：55-89，2014. (学会ホームページからPDFファイルダウンロード可能 https://www.jsdr.or.jp/doc/)			
【参考書】 都度、必要な資料を配付する。			
【評価に関わる情報】 (評価の基準・方法) 成績評価基準は、本学学則・授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規程に従う。			

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				50	50				100
評価指標	取り込む力・知識			25	20				45
	思考・推論・創造の力			25	20				45
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力				10				10
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	オリエンテーション 臨床で苦慮する症例とその特徴	講義、討議	臨床で苦慮する症例、症状について発表できるよう準備をしておくこと	240
2	間接訓練1 各種間接訓練法の適応、方法 間接訓練実践時の注意点、苦慮する点についてディスカッション	講義、討議	クラス発表	240
3	間接訓練2 各種間接訓練法の適応、方法 間接訓練実践時の注意点、苦慮する点についてディスカッション	講義、討議	クラス発表	240
4	直接訓練1 直接訓練実践時の注意点、苦慮する点についてディスカッション	講義、討議	クラス発表	240
5	直接訓練2 直接訓練実践時の注意点、苦慮する点についてディスカッション	講義、討議	クラス発表	240
6	薬物治療、栄養管理 実際の臨床における取組みについてディスカッション	講義、討議	クラス発表	240
7	外科的治療、補綴装置 実際の臨床における取組みについてディスカッション	講義、討議	クラス発表	240
8	治療計画立案 症例に即した治療訓練計画の立案練習	討議	クラス発表	240

【科目名】	口腔介護		【担当教員】	木戸 寿明
【授業区分】	専門科目	【授業コード】	Dbh108 (メールアドレス)	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修 講義時に伝達	
【単位数】	1	【コマ数】	8 (オフィスアワー) 来学時に対応	
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
摂食・嚥下障害コースの学生は必修科目。高次脳機能障害コースの学生のうち、顎口腔領域の評価やリハビリテーションに関わる機会の多い言語聴覚士や、それらの領域に興味を持つ者は、選択することが望ましい。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
双方向型の授業です。積極的な態度、発言を求めます。また、社会歯科学的な観点から、口腔介護と現在の社会情勢等との関係も論ずるため、最低限の社会一般常識を有することが必須である。				
【講義概要】				
(目的)				
超高齢社会において口腔介護がなぜ必要とされるのかを理解する。口腔介護を理解し、実践するために必要な歯科の臨床解剖、臨床生理、歯科特有の用語、歯科疾患、補綴装置等を理解する。加齢や、摂食嚥下障害をはじめとする歯・口腔・顎・頸・顔面部等の機能の障害により、日常生活に支障をきたした要介護者に対し、歯科の知識と技術を活用して対応するとともに、要介護者に対する対応法や日常生活の支援法についての知識を身につける。いわゆる「フレイル」を理解し、フレイル対策としての口腔介護の役割を理解する。専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。				
(方法)				
・医療介護連携、多職種連携の観点から、様々な連携の実際、問題点の把握を行う。 担当教員は歯科医師であり、日々訪問歯科診療、地域での他職種との連携業務等に携わっています。口腔介護を通して、個々の患者さんにどのようにお役に立てるのか？また、社会全体に対してどのような役割を担えるのか？講義を通して理解し、将来の臨床現場での活躍につなげて頂ければと考えています。 レポートに関して、コメントを付して返却します。				
【一般教育目標(GIO)】				
<ul style="list-style-type: none"> ・口腔介護の意義について理解するための医学的知識並びに社会的背景について理解する。 ・フレイルを理解し、フレイル対策としての口腔介護を理解する。 ・地域包括ケアにおける口腔介護の役割を理解する 				
【行動目標(SBO)】				
<ul style="list-style-type: none"> ・口腔介護に必要な歯科的観点、歯科的専門用語を用いて、その意義について説明ができる。 ・口腔介護の地域社会での役割について説明ができる。 				
【教科書・リザーブドブック】				
プリント等を配付する				
【参考書】				
歯科衛生士のための口腔介護実践マニュアル メディカ出版 2012年 ¥2,800				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。 口頭試問50% 講義途中での課題の達成度50%				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				100					100
評価指標	取り込む力・知識			50					50
	思考・推論・創造の力			50					50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	口腔介護が求められる社会的背景 超高齢社会における医療供給体制	講義	人口動態等社会情勢の把握	220
2	要介護者の理解 身体的精神的特徴、原因疾患と口腔の関係	講義	学習した内容の復習	220
3	口腔の臨床解剖と臨床生理 摂食嚥下に関わる構造と機能	講義	解剖学、生理学の復習	220
4	歯科疾患と補綴装置 歯科の専門用語、疾患の理解、補綴装置の理論と実際	講義	臨床歯科医学の復習	220
5	要介護者の口腔に関わる諸問題 口腔疾患、口腔機能低下、摂食嚥下障害の実際	講義	前期に学ぶ摂食嚥下障害学の復習	220
6	口腔健康管理について 口腔衛生管理、口腔機能管理の実際	講義	口腔ケアに関する情報収集	220
7	フレイルとは フレイルについて、オーラルフレイル	講義	文献的考察	220
8	多職種連携、地域包括ケア チームによる医療介護連携の実際	講義	一般的な介護保険制度等の把握	220

【科目名】	摂食・嚥下食品・栄養学		【担当教員】	山村 千絵
【授業区分】	専門科目	【授業コード】	dbh 201	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	
【単位数】	1	【コマ数】	8	
【注意事項】	<p>(受講者に関わる情報・履修条件)</p> <p>摂食・嚥下障害コース、高次脳機能障害コース、心の健康科学コースの学生のうち、高齢者や摂食嚥下機能が低下した方、疾病がある方の食事場面や栄養評価に関わる機会のある言語聴覚士や看護師等のうち、それらの領域に強い関心や問題意識を持つ者に選択してほしい。</p> <p>(受講のルールに関わる情報・予備知識)</p> <p>授業には常に問題意識を持って、積極的に参加しましょう。</p>			
【講義概要】	<p>(目的)</p> <p>高齢者や摂食嚥下機能が低下した方、疾病がある方の栄養管理には、個々人の機能に着目しつつ適切に栄養を摂取するように見守ることと、QOLを向上させることが重要である。そこで、対象者の身体機能や栄養状態の変化を考慮しつつ、誤嚥性肺炎予防のための口腔ケア、嚥下調整食等の栄養評価・おいしさ評価・物性評価、さらには経管栄養や半固形栄養、高齢者の疾病と栄養ケア、補完代替医療などについて論ずる。また、食事援助を行う対象者へ向けた食の考え方や工夫について論ずる。</p> <p>●当該科目と学位授与方針等との関連性： 専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。</p> <p>(方法)</p> <p>主として配付資料やパワーポイントスライド等を用いて講義を行う。その際、臨床現場で対応する患者様や高齢者などを思い浮かべながら聴講していただくと、理解も深まる。</p> <p>試験・レポートのフィードバック方法： コメントを付して返却する。</p>			
【一般教育目標(GIO)】	リハビリテーション領域の専門知識・技術と本講義内容が、臨床現場において両輪となり、対象者の健康維持ならびに介護予防に貢献できる。			
【行動目標(SB0)】	高齢者や摂食嚥下機能が低下した方、疾病がある方等の食生活を栄養面、食品面及び調理面からも科学的に評価できる。臨床現場における栄養サポートチームの一員としての役割が果たせるようになる。具体的な栄養評価、栄養プログラムの計画ならびに目標設定が行えるようになる。			
【教科書・リザーブドブック】	特に指定しない、プリント等を配付する。			
【参考書】	<p>日本摂食嚥下リハビリテーション学会(編)「摂食・嚥下障害患者の栄養 Ver.3」医歯薬出版 2020年 ¥3,190(税込)</p> <p>栢下淳・若林秀隆(編著)リハビリテーションに役立つ栄養学の基礎 第2版 医歯薬出版 2018年 ¥4,180(税込)</p> <p>手嶋登志子(ほか著)介護食ハンドブック 第2版 医歯薬出版 2010年 ¥3,080(税込)</p>			
【評価に関わる情報】	<p>(評価の基準・方法)</p> <p>本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規程に従う。</p> <p>成績評価は、記述式試験80%、講義途中で課すレポート等課題の達成度20%の割合で実施する。</p>			

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		80		20					100
評価 指標	取り込む力・知識	80		20					100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	高齢者の身体機能と栄養評価 加齢による身体機能の変化 栄養評価	講義	準備：これまでに学んだ関連領域の知識の整理を行う。 事後：学修した内容の復習と臨床や修士研究への展開を考え、レポートにまとめる。	90分
2	高齢者の口腔機能と口腔ケア 高齢者の口腔機能 誤嚥性肺炎 口腔ケア	講義	準備：これまでに学んだ関連領域の知識の整理を行う。 事後：学修した内容の復習と臨床や修士研究への展開を考え、レポートにまとめる。	90分
3	摂食嚥下機能が低下した方の咀嚼と食物形態 嚥下調整食・嚥下訓練食品 QOLを下げない食事 何をどれだけ・どのように食べたらよいか	講義	準備：これまでに学んだ関連領域の知識の整理を行う。 事後：学修した内容の復習と臨床や修士研究への展開を考え、レポートにまとめる。	90分
4	おいしさ評価 物性評価 摂食行動における味覚の重要性 テクスチャーの評価法	講義	予習：これまでに学んだ関連領域の知識の整理を行う。 復習：学修した内容の復習と臨床や修士研究への展開を考え、レポートにまとめる。	90分
5	高齢者の経管栄養と半固形栄養 経管栄養とその問題点 半固形栄養法の実際	講義	予習：これまでに学んだ関連領域の知識の整理を行う。 復習：学修した内容の復習と臨床や修士研究への展開を考え、レポートにまとめる。	90分
6	高齢者の疾病と栄養ケア 糖尿病ケア 腎機能障害と栄養ケア	講義	予習：これまでに学んだ関連領域の知識の整理を行う。 復習：学修した内容の復習と臨床や修士研究への展開を考え、レポートにまとめる。	90分
7	終末期治療と倫理問題 末期患者への栄養サポートと倫理問題	講義	予習：これまでに学んだ関連領域の知識の整理を行う。 復習：学修した内容の復習と臨床や修士研究への展開を考え、レポートにまとめる。	90分
8	がん患者の栄養と補完代替医療 がん患者の栄養評価 がん医療における補完医療	講義	予習：これまでに学んだ関連領域の知識の整理を行う。 復習：学修した内容の復習と臨床や修士研究への展開を考え、レポートにまとめる。	90分

【科目名】	摂食・嚥下障害ケーススタディ・研究方法論		【担当教員】	高橋 圭三
【授業区分】	専門科目	【授業コード】	D 202	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	
【単位数】	2	【コマ数】	15	
【注意事項】	<p>(受講者に関わる情報・履修条件)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・摂食・嚥下コース2年次の学生が対象 <p>(受講のルールに関わる情報・予備知識)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義には、テキストを持参すること。 ・専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う 			
【講義概要】	<p>(目的)</p> <p>「食べる」は極めて日常的な行動ですが、食行動を把握する際、生理的要因、認知的要因、物理的・化学的要因、及び文化的・社会的要因を考慮する必要があります。そのように多面的な観点を基に、様々な原因疾患症例（例えば、高齢者や認知症/精神障害者、頭頸部腫瘍術後例など）の食の特徴及び問題点を概説していきます。さらに、症例を通して感じた疑問やテーマを研究に移せるように摂食嚥下領域で用いられる研究手技について紹介します。</p> <p>(方法)</p> <p>誤りを怖れる必要はありませんので、質問や自分の意見を述べることを躊躇せず、ディスカッションに積極的に参加することで多くを学んでください。 レポートにはコメントを付して返却します。</p>			
【一般教育目標(GIO)】	<ul style="list-style-type: none"> ・近年の知見から、摂食・嚥下障害の研究法を学ぶ。 			
【行動目標(SBO)】	<ul style="list-style-type: none"> ・異なる病態/症状を呈する症例に対し、多面的なアプローチができる。 ・摂食・嚥下に関連する研究手法に親しむ。 			
【教科書・リザーブドブック】	<p>里宇明元・藤原俊之 監修：ケーススタディ摂食・嚥下リハビリテーションDVD付 50症例から学ぶ実践的アプローチ。医歯薬出版，2008。¥5,200 (購入は不要。講義の開始日までに各自、図書館で借りておくこと。)</p>			
【参考書】	<p>野崎園子・市原典子 編著：DVDで学ぶ神経内科の摂食嚥下障害。医歯薬出版，2014。 ¥7,400 前田圭介：誤嚥性肺炎の予防とケア(7つの多面的アプローチをはじめよう)。医学書院，2017。 ¥2,592 藤本篤士 編著：老化と摂食嚥下障害 「口から食べる」を多職種で支えるための視点。医歯薬出版，2017。 ¥4,860</p>			
【評価に関わる情報】	<p>(評価の基準・方法)</p> <p>本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。 ディスカッションへの参加態度20%、レポート80%として総合的に評価を行う。</p>			

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				100					100
評価指標	取り込む力・知識			100					100
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	オリエンテーション、 脳血管障害による摂食・嚥下障害科目の概要と今後の予定	講義と症例検討 (画像評価含む)	事後学修：講義ノートとテキスト当該章の復習	220分
2	ワルバルク [®] 症候群の摂食・嚥下障害	講義と症例検討 (画像評価含む)	準備学修：テキストの当該章を予習 レポート準備	100分 120分
3	神経筋疾患による摂食嚥下障害：原因疾患と嚥下障害	講義と症例検討 (画像評価含む)	準備学修：テキストの当該章を予習 レポート準備	100分 120分
4	ALSとパーキンソン病の摂食・嚥下障害	講義と症例検討 (画像評価含む)	準備学修：テキストの当該章を予習 レポート準備	100分 120分
5	頭頸部腫瘍による摂食・嚥下障害：口腔・咽頭癌、喉頭癌	講義と症例検討 (画像評価含む)	準備学修：テキストの当該章を予習 レポート準備	100分 120分
6	頭頸部腫瘍による摂食・嚥下障害：頸部郭清術と喉頭全摘頭	講義と症例検討 (画像評価含む)	準備学修：テキストの当該章を予習 レポート準備	100分 120分
7	気管切開・カニューレ装用、人工呼吸器装着症例の摂食・嚥下障害	講義と症例検討 (画像評価含む)	準備学修：テキストの当該章を予習 レポート準備	100分 120分
8	椎損傷による摂食・嚥下障害、薬と摂食・嚥下障害、ターミナルケア	講義と症例検討 (画像評価含む)	準備学修：テキストの当該章を予習 レポート準備	100分 120分

9	高齢者の食行動と摂食嚥下障害（老嚥、フレイル、サルコペニア）	講義と症例検討	予習：加齢による嚥下機能の変化を確認しておく	220分
10	認知症、精神疾患と摂食嚥下障害	講義と症例検討	予習：認知症の定義を確認しておく	220分
11	症例報告	講義と関連論文での研究法の検討	予習：症例報告を1篇選び、目を通しておく	220分
12	健常者を対象とした研究	講義と関連論文での研究法の検討	準備学修：データの種類、収集方法、統計解析の復習	220分
13	摂食嚥下障害例を対象にした介入研究	講義と関連論文での研究法の検討	事後の展開：講義資料の整理とレポート準備	100分 120分
14	ランダム化比較研究	講義と関連論文での研究法の検討	事後の展開：講義資料の整理とレポート準備	100分 120分
15	Systematic Review	講義と関連論文での研究法の検討	事後の展開：講義資料の整理とレポート準備	100分 120分

【科目名】	高次脳機能障害学総論Ⅰ（基礎）		【担当教員】	伊林 克彦
【授業区分】	専門科目	【授業コード】	dBmhs109	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	
【単位数】	1	【コマ数】	8	
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
この科目を受講するには基礎的な神経解剖学を修得していることが前提です。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
この科目では大脳の器質的な損傷に伴う巣症状を理解していることが求められます。				
【講義概要】				
(目的)				
高次脳機能障害を幅広く理解する。 中枢神経系の理解を深める。				
【学位授与の方針と当該授業科目の関連】				
専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。				
(方法)				
授業やディスカッションにおいて積極的な参加を望む。				
【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】				
試験や授業の後で個々にフィードバックする。				
【一般教育目標(GIO)】				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 中枢神経系の発生、形態学ならびにヒトの脳の特徴（特殊化）を研究する。 ・ 高次脳機能について幅広く概観する。 				
【行動目標(SB0)】				
<ul style="list-style-type: none"> ・ 高次脳機能が日常生活にどのように関わっているかを学修する。 				
【教科書・リザーブドブック】				
資料を配付します。				
【参考書】				
脳解剖学 萬年甫 原一之 南江堂 9,800円				
高次脳機能障害 藤田郁代 医学書院 4,725円				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
成績評価基準は、本学学則・授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規程に従う。 レポート60%、口頭試問40%。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		40		60					100
評価指標	取り込む力・知識	40		60					100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	高次脳機能障害とは 高次脳機能の基本概念	講義	中枢神経系に関する解剖学および神経学の書籍を読む。	220
2	聴覚認知とは 聴覚認知の障害	講義	聴覚と脳の関係について関連書を読んで予習する。	220
3	視覚認知とは 視覚認知の障害	講義	視覚と脳の関係について関連書を読んで予習する。	220
4	視空間認知とは 視空間認知の障害	講義	視空間知覚と脳について関連書を読んで予習する。	220
5 6	5 高次脳機能障害の臨床像 ①各症状の出現頻度 ②各症状と左右脳半球の関係	講義	脳血管障害、変性疾患、外傷、脳腫瘍などの疾患に対する文献や書籍を通して予習する。	220
7	触覚認知とは 触覚認知の障害	講義	触覚及び体性感覚と脳について関連書を読んで予習する。	220
8	行為機能とは 行為の障害	講義	行為・遂行機能と脳について関連書を読んで予習する。	220

【科目名】	高次脳機能障害学総論Ⅱ（応用）		【担当教員】	宮岡 里美
【授業区分】	専門科目	【授業コード】	dBmhs110	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	
【単位数】	1	【コマ数】	8	
【注意事項】	<p>(受講者に関わる情報・履修条件)</p> <p>※本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。医療及び地域保健機関で言語・高次脳機能障害や精神機能障害へのリハビリテーションに従事してきた経験から、脳の構造及び機能と心のはたらきの関係について講じていきます。 ※本科目は言語聴覚士、公認心理師等を目指す者には重要な科目となります。</p> <p>(受講のルールに関わる情報・予備知識)</p> <p>この科目では20分以上の遅れで「遅刻」となります。申し出のない途中退室は欠席と見なします。 他者に迷惑となる行為が認められた場合は、講義室から退出していただきます。</p>			
【講義概要】	<p>(目的)</p> <p>①脳機能と心のはたらき（脳と心）の関係、②脳のダメージが人の心や言動にどのような変化をもたらすのかを学ぶ。そして、③脳神経系疾患患者への適切な支援法について神経心理学的視点から考え、実践できることを目的とします。 当該科目と学位授与方針との関連性；専門領域に関する多様な課題を分析し、自ら解決する能力を培う。</p> <p>(方法)</p> <p>Power Point スライドを使用しての講義が中心となります。 毎回、資料の配布を行い、参考文献を紹介する。 「脳の構造と機能」についての総論及び各論は「解剖学」「生理学」及び「神経生理学」等で既に学習しているので、本講義では、各心理機能に関連している中枢をその都度説明していくにとどめる。 可能な限り、症例を通して実際に学べるように視聴覚教材や臨床検査を使用して、講義を進めていく。</p>			
【一般教育目標(GIO)】	<p>①脳の神経系の構造や機能について基礎的な説明ができる。 ②知覚・認知、記憶、学習、動機づけ、感情、思考と言語などの神経学的・生理学的作用機序を説明できる。 ③脳神経系の疾患とその病態を神経心理学的に評価できる。 ④心理学的立場からの適切な支援、リハビリテーションの実施法を理解できる。</p>			
【行動目標(SB0)】	<p>高次脳機能障害と脳機能との関連性が理解でき、適切に支援することができる。 コミュニケーション能力の機序を脳機能から理解でき、その機能障害が生活・社会活動全般に及ぼす影響も説明できる。 症例に即した神経心理学的検査を正しく実施でき、その結果を適切に評価できる。</p>			
【教科書・リザーブドブック】	<p>特に指定せず。毎回、関連する資料を配布する。 尚、「(神経)解剖学」「(神経)生理学」の教科書で、当講義内容と関連する項目についてはその都度参照し、予習や復習に活用することが望ましい。</p>			
【参考書】	<p>田川皓一、池田学(編)「神経心理学への誘い 高次脳機能障害の評価」西村書店(2020/9/2) ¥7,480(税込) 山鳥重(著)「神経心理学入門」医学書院(1985/1/1) ¥7,040 Newton 別冊ムック「脳とは何か」(株)ニュートンプレス(2019/12/5) ¥1,980(税込)</p>			
【評価に関わる情報】	<p>(評価の基準・方法)</p> <p>下記の評価基準により、100点満点で60点以上を合格とする。 本学GPA評価基準に従う。 試験結果・授業中に実施した心理テスト等のデータは、支障のない限り返却します。</p>			

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合			30	70					100
評価指標	取り込む力・知識		30	30					60
	思考・推論・創造の力			40					40
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	失認：感覚知覚機能と高次脳機能、支援・対応法 視覚失認・聴覚失認・触覚失認・身体失認 各失認のスクリーニング検査	講義 検査の演習	復習(要点の整理)	20
2	注意障害：注意機能と高次脳機能、支援・対応法 持続的注意・選択的注意・転導性注意 ・注意の配分	講義 検査の演習	復習(要点の整理)	20
3	失行：行為と高次脳機能、支援・対応法 運動失行・観念失行・構成失行・着衣失行等 遂行機能障害と高次脳機能 観察のポイントとリハビリテーション	講義 検査の演習	復習(要点の整理)	20
4	失語：言語機能と高次脳機能、支援・対応法 失語症の分類 スクリーニングテスト リハビリテーション 日常生活での配慮	講義 検査の演習	復習(要点の整理)	20
5	記憶：記憶障害と高次脳機能、支援・対応法 記憶障害の分類 スクリーニングテスト リハビリテーション 日常生活での配慮	講義 検査の演習	復習(要点の整理)	20
6	感情：情動障害と高次脳機能、支援・対応法 社会的行動障害 依存性・退行、欲求コントロール低下、 感情コントロール低下、対人技能拙劣、 固執性、意欲・発動性の低下、抑うつ等	講義	復習(要点の整理)	20
7	発達障害：発達期の課題 生活/修学/就労支援 家族支援	講義	復習(要点の整理)	20
8	認知症：高齢期の課題 生活支援 家族支援	講義 検査の演習	復習(要点の整理)	20

【科目名】	発達神経心理学		【担当教員】	川崎 聡大
【授業区分】	専門科目	【授業コード】	dbh111	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択	
【単位数】	1	【コマ数】	8	(オフィスアワー) 来学時に対応
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
特にありませんが、発達障害領域に関する興味関心を持って受講することを求める				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
特記事項無し				
【講義概要】				
(目的)				
本講義では発達期における高次脳機能障害の実態を知り根拠に基づいた対処方法について理解を深めることにある。そのため、①発達神経心理、認知神経心理学の基礎を理解し、広汎性発達障害、特異的障害それぞれの定義、障害機序について知る ②応用行動分析学に基づいた言語およびコミュニケーション行動の指導について知る (S-S法を含む) ③「臨床発達障害学」の視点から、適切な対応について学び、子どもと保護者(保育者)に対する根拠に基づいた支援・リハビリテーションの方法を学ぶ。を主たる目的とする。専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う				
(方法)				
評価は修了後のレポートと講義ごとの小テストから行う。小テストは前回講義を踏まえて次回講義に最初に実施しその場でフィードバックを行う。レポートについては提出後個別にフィードバックを行う。				
【一般教育目標(GIO)】				
<ul style="list-style-type: none"> ・「発達障害」の最先端を理解する ・発達障害児を高次脳機能障害の観点からとらえ、発達障害の背景となる要素的な認知機能障害について理解を深め障害像を正しく知る。 				
【行動目標(SBO)】				
<ul style="list-style-type: none"> ・発達障害について根拠に基づいた言語や行動面に関する支援が可能となる。 ・特異的発達障害の指導に関するアセスメントと指導方針を正しく立てることができる。 				
【教科書・リザーブドブック】				
資料を配付する。				
【参考書】				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
成績評価基準は、本学学則・授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規程に従う。レポート60%、小テスト・授業・課題への取り組み(特に積極性)40%の割合で総合的に評価を行う。				
1日分の講義を欠席し出席要件を満たさない場合は、他に課題を課す。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				60				40	100
評価 指標	取り込む力・知識			60				40	100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	小児の高次脳機能障害としての発達障害、各「発達障害」の障害機序と背景となる脳機能障害	講義	当該領域の予習並びに復習を行う。 個々の臨床領域に合わせて必ず一つ 興味関心事項とテーマを定めて講義 に参加することを求める	220
2	発達障害の症候と言語・コミュニケーション面への関係、社会的不利との因果関係	講義	当該領域の予習並びに復習を行う。 個々の臨床領域に合わせて必ず一つ 興味関心事項とテーマを定めて講義 に参加することを求める	220
3	「発達障害」の対象： 広汎性発達障害からASDへ	講義・ディス カッション	当該領域の予習並びに復習を行う。 個々の臨床領域に合わせて必ず一つ 興味関心事項とテーマを定めて講義 に参加することを求める	220
4	言語発達障害に対する指導の基礎 見本合わせ学習に基づいた言語指導 1) 生活年齢に比し遅れ 2) 音声発信困難	講義	当該領域の予習並びに復習を行う。 個々の臨床領域に合わせて必ず一つ 興味関心事項とテーマを定めて講義 に参加することを求める	220
5	言語発達障害に対する指導の基礎 認知神経心理学的アプローチ	講義	当該領域の予習並びに復習を行う。 個々の臨床領域に合わせて必ず一つ 興味関心事項とテーマを定めて講義 に参加することを求める	220
6	指導事例から： ASDおよびADHDに対する支援	講義	当該領域の予習並びに復習を行う。 個々の臨床領域に合わせて必ず一つ 興味関心事項とテーマを定めて講義 に参加することを求める	220
7	指導事例から： 限局性学習障害（ディスレクシアを中心に）	講義	当該領域の予習並びに復習を行う。 個々の臨床領域に合わせて必ず一つ 興味関心事項とテーマを定めて講義 に参加することを求める	220
8	まとめ：近年の研究動向について	講義	当該領域の予習並びに復習を行う。 個々の臨床領域に合わせて必ず一つ 興味関心事項とテーマを定めて講義 に参加することを求める	220

【科目名】	前頭葉機能・右半球障害		【担当教員】	道関 京子、波多野 和夫	
【授業区分】	専門科目	【授業コード】	dbmh113 (メールアドレス)		
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択 道関：doseki@nur.ac.jp		
【単位数】	1	【コマ数】	8 (オフィスアワー) 土曜・日曜12～13時、来学時		
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件)					
前頭葉および十分解明されていない分野ですが右半球機能に対する興味を少しでも持って受講いただきたい。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識)					
前頭葉は非常に不思議な神経組織であり、その機能と症状はしばしば「エニグマ」「謎」「パラドックス」などと呼ばれてきた。本講義では徹底的に臨床的な立場から、可能な限り症例の事実在即して、ビデオなどを使用した実践的な内容を中心とした。					
【講義概要】					
(目的)					
<ul style="list-style-type: none"> ・前頭葉症状群 (1) 言語障害 (2) 遂行機能障害 (3) 記憶障害 (ワーキングメモリ) (4) 思考障害 (5) 情動障害 (6) 精神症状 (7) 発動性障害 (8) 前頭葉と痴呆 (9) 眼窩脳症候群と凸面皮質症候群、前頭葉機能検査、前頭葉のエニグマ (謎)、前頭葉損傷の症例研究、治療、特にSTの役割について。右半球の神経心理学的症状、左半側の空間無視、聴空間認知障害、空間イメージにおける左側の無視、左半身の運動無視、左半身の麻痺の無関心及び否認、左半身の自己帰属性の否定等を様々な症状について理解する。 ・当該科目と学位授与方針等との関連性：専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。 					
(方法)					
<ul style="list-style-type: none"> ・前頭葉は非常に不思議な神経組織であり、その機能と症状はしばしば「エニグマ」「謎」「パラドックス」などと呼ばれてきた。本講義では徹底的に臨床的な立場から、可能な限り症例の事実在即して、ビデオなどを使用した実践的な内容を中心とする。 ・課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックは、メールで行うか解説コメントの時間を設定する。 					
【一般教育目標 (GIO)】					
<ul style="list-style-type: none"> ・前頭葉の構造と機能、及びその損傷による症状についての知識を深める。 ・前頭葉機能障害および右半球損傷で見られる様々な神経心理学的症状についての知識を深める。 ・言語リハビリを編成するために、前頭葉障害で出現する2つの失語症の構造的・質的な違いを理解する。 ・さらに前頭葉による非流暢タイプと他領域の流暢タイプの問題の違いを理解する。 					
【行動目標 (SBO)】					
<ul style="list-style-type: none"> ・前頭葉機能障害を実際に診断する基礎を把握できる。 ・流暢・非流暢タイプ分類の根拠を明示できる。 ・前頭葉障害の非流暢タイプについて分離できる。 					
【教科書・リザーブドブック】					
資料やプリントを配布する。					
【参考書】					
波多野和夫他、言語聴覚士のための失語症学、医歯薬出版、2002年、¥5,500 (税込)					
Penelope SM、右半球損傷—認知とコミュニケーションの障害—、宮森孝史監訳、共同医書出版、2007年、¥5,500 (税込)					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法)					
本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規定に従う。 レポート課題を実施する。レポート30%、授業課題への取り組み20%、小テスト (討議) 50%の割合で総合的に評価を行う。					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合			50	30				20	100
評価指標	取り込む力・知識			30				20	50
	思考・推論・創造の力		25						25
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢		25						25

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	前頭葉の機能と構造 前頭葉症状群 解剖学と生理学 ブローカ失語, 非流暢性失語群	(波多野)	学修した内容の復習を行う	
2	前頭葉症状群 超皮質性失語群 非失語性言語症状	(波多野)	学修した内容の復習を行う	
3	前頭葉症状群 認知, 行為, 情動障害など 遂行機能障害, 精神症状など	(波多野)	学修した内容の復習を行う	
4	右半球研究への道程 無視	(波多野)	学修した内容の復習を行う	
5	失語症の評価と構造的訓練 ・前頭葉・流暢と非流暢分類の問題を考える。	講義・討議 (道関)	・発話の流暢性問題を復習する。 ・各研究者の失語分類の考え方を調べ、臨床と合わせて考えておく。	220分
6	失語症の評価と構造的訓練 ・分類について討論 ・前頭葉・Broca失語の構造的評価 ・質の異なる単位への移行障害に対する訓練	講義・討議 (道関)	・Broca失語の評価・訓練について復習する。 ・移行障害に対する訓練を立案する。	220分
7	失語症の評価と構造的訓練 ・Broca失語訓練について討論 ・前頭葉・超皮質性運動失語の構造的評価 ・内言障害に対する訓練	講義・討議 (道関)	・超皮質性運動失語の評価・訓練について復習する。 ・内言障害に対する訓練を立案する。	220分
8	失語症の評価と構造的訓練 ・超皮質性運動失語訓練について討論 ・前頭葉失語と他領域失語との関連性	講義・討議 (道関)	前頭葉失語と他領域失語との関連性について個別にまとめて学習する	240分

【科目名】	注意・記憶・行為・遂行機能障害		【担当教員】	道関 京子
【授業区分】	専門科目	【授業コード】	dBmh 114	
【開講時期】	後期	【選択必修】	必修	
【単位数】	1	【コマ数】	8	
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
高次脳機能「言語・注意・記憶・行為・遂行機能・その他」の学部的知識・基礎的知識は前提とする。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
積極的な姿勢で受講すること。				
【講義概要】				
(目的)				
<ul style="list-style-type: none"> ・高次脳機能の各障害について、その共通する基盤である自己受容感覚(自己表象・身体図式)の重要性を理解する。 ・その基本を踏まえたリハビリテーションや発達支援を考えて行ける能力を身につける。 				
<ul style="list-style-type: none"> ・当該科目と学位授与方針等との関連性：高度な知識の活用能力、批判的・論理的思考力、表現能力、プレゼンテーション能力等を統合する力を培う。 				
(方法)				
<ul style="list-style-type: none"> ・高次脳機能およびその発達のそれぞれを支える意識(随意性)と知覚の中心要素である自己受容感覚から再考察する。 ・さらに、各学術界で用いられている用語「固有感覚、身体図式、身体イメージなど」を自己受容感覚の階層性の違いとして捉える現代の主流な研究潮流を紹介する。 ・テキストに限定せず、up-dateな文献も毎回追加する。 ・課題やレポート等に対するフィードバックは、講義中に解説していくほか、別時間をとって解説する。 				
【一般教育目標(GIO)】				
<ul style="list-style-type: none"> ・高次脳機能を定義するためにも、その障害の基盤となる自己受容感覚(身体図式、自己意識)と障害全体を理解する。 ・現代人間科学の主要テーマを真に理解するため、自己受容感覚の最新の研究を理解する。 				
【行動目標(SB0)】				
<ul style="list-style-type: none"> ・高次脳機能の基軸である自己受容感覚と、その一般用語「固有感覚、身体図式、身体イメージ、自己表象、1人称的自己等」について説明できる。 ・自己受容感覚(身体図式、自己意識)の病理について説明できる。 ・高次脳機能障害研究およびリハビリテーションにおける自己受容感覚の重要性を理解し、その活用を編成できる。 				
【教科書・リザーブドブック】				
<ul style="list-style-type: none"> ・資料を配布する 				
【参考書】				
<ul style="list-style-type: none"> ・大東祥孝、身体図式、講座 精神の科学(4)、209-236、岩波書店、1983年(資料として配布する) ・Gallagher S: How the Body Shapes the Mind. Clarendon Press, 2005. ・市川 浩：精神としての身体。講談社学術文庫、1992年、¥6,840(税込) 				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
<p>本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規定に従う。</p> <p>講義中に実技(討議による口述試験)を行い成績評価する。</p>				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合						100			100
評価指標	取り込む力・知識					25			25
	思考・推論・創造の力					50			50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								0
	学修に取り組む姿勢					25			25

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	<ul style="list-style-type: none"> 講義概要の説明 高次脳機能の定義 高次脳機能の根底を支えるものは何か 	講義・討議	資料を復習する。 特に高次脳機能の定義を確実に説明できるようにする。	220分
2	自己受容感覚の重要性 学术界によって様々な用語で研究されている理由と階層性概念	講義・討議	資料を復習する。	220分
3	<ul style="list-style-type: none"> 身体図式概念が必要だった神経心理学研究の歴史 	講義・討議	神経心理学の研究を復習し、身体図式障害と注意・記憶・行為・遂行機能障害への関わりについて調べる。	220分
4	身体図式の病理 <ul style="list-style-type: none"> 身体失認 臨床討議(口述試験) 	講義・討議	<ul style="list-style-type: none"> 身体失認について復習する。 心理的身体と身体知について予習する。 	220分
5	身体図式の病理 <ul style="list-style-type: none"> 幻影肢など心理的身体と身体知 臨床討議(口述試験) 	講義・討議	<ul style="list-style-type: none"> 幻影肢など心理的身体と身体知について復習する。 病態失認について予習する。 	220分
6	身体図式の病理 <ul style="list-style-type: none"> 病態失認 臨床討議(口述試験) 	講義・討議	<ul style="list-style-type: none"> 病態失認について復習する。 Coslettの研究(資料)について予習する。 	220分
7	近年の研究レビュー <ul style="list-style-type: none"> Coslett HBを中心とした自己意識の3区分と高次脳機能の関係 臨床討議(口述試験) 	講義・討議	<ul style="list-style-type: none"> 3区分自己意識の復習をする。 Gallagherの研究(資料)について予習する。 	300分
8	<ul style="list-style-type: none"> Gallagher Sのembodied cognition理論 自己意識や高次脳機能に対する身体の役割重視 画像で分かった自己意識の運動による拡張 運動である自己意識の臨床討議 	講義・討議	Gallagherのembodied cognition理論について復習する。	300分

【科目名】	視覚機能障害		【担当教員】	武田 克彦、伊林 克彦
【授業区分】	専門科目	【授業コード】	dbh115	(メールアドレス)
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	伊林：ibayashi@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	8	(オフィスアワー) 伊林：水曜日午後
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
<p>用語がわかりにくいので、適宜参考書にあたることを勧める。</p> <p>【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】 レポートを課す予定であるが、質問等あれば、コメントを返すなどの対応をする。（武田） 質問などに対し、メール又は口頭で随時対応を行う。（伊林）</p>				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
<p>視覚に関する神経解剖学的な知識が必要となる。 学部等で学んだ当該領域の復習を十分にすること。</p>				
【講義概要】				
(目的)				
<p>高次の視覚機能の障害には物品、顔、色、文字などがわからないなどがある。それらが脳でどのように処理されていて、どう障害されるかを学ぶ。 当該科目と学位授与方針等との関連性：専門領域に関する多様な課題を発見分析し自ら解決する能力を培う。</p>				
(方法)				
<p>講義は、資料を配付し、スライドを使用して行う。レポートを課すが、そのレポートに対してコメントをする。</p>				
【一般教育目標(GIO)】				
<p>・高次の視覚機能にはどのようなものがあり、その症候を理解する。 その障害が脳の構造とどのような関連があって生じているかを説明できるようにする。</p>				
【行動目標(SB0)】				
<p>・高次の視覚機能障害の個々の症状を説明できる。その症状がどのような脳の構造が障害されたために生じているかを説明できる。このような症状を持った患者さんを診察したりその症状に対応できるようにする。</p>				
【教科書・リザーブドブック】				
<p>資料を配付する。</p>				
【参考書】				
<p>武田克彦：「ベッドサイドの神経心理学」改訂2版 中外医学社 2009 武田克彦、村井俊哉：「高次脳機能障害の考え方と画像診断」 中外医学社</p>				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
<p>成績評価基準は、本学学則・授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規程に従う。 授業への出席（10%）、レポートを提出していただきその評価（90%）、これらの総合で評価する。</p>				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				90				10	100
評価指標	取り込む力・知識			30					30
	思考・推論・創造の力			50					50
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力			10					10
	学修に取り組む姿勢							10	10

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	視覚の基礎を学ぶ。眼（網膜など）、視神経、視覚野の構造と働きを知る。	講義（武田）	目のしくみ、視力、視野後頭葉の構造などについて予習復習すること。	220
2	高次の視覚情報処理として運動視、色覚などについて学ぶ。盲視といて見えないはずのところに提示された刺激の処理についても学ぶ。	講義（武田）	高次の視覚野、運動や色についての脳の機構、その障害について予習復習すること。	220
3	視覚失認とは何か、その症状なぜその症状が生じるのかなどについて学ぶ。	講義（武田）	失認ということの理解は難しいので、いろいろな神経心理学の本にあたることを勧める。	220
4	文字の脳内処理、その障害である純粋失読について学ぶ。	講義（武田）	純粋失読について参考書などを読んで復習などしてください。	220
5	心的イメージについて学ぶ イメージの処理がどのような脳内処理でなされるのかなどである。	講義（武田）	心的イメージの障害などについては、各個人で推論が可能なはずであり、授業内容について各自が考えることを勧める。	220
6	右半球機能 右半球における認知障害	講義（伊林）	右半球全体における各種の認知障害を書物により予習する。	220
7	無視 左右の頭頂葉症状と半側空間無視	講義（伊林）	無視に関係する左右の大脳半球特に側頭・後頭葉の接合部における機能を予め調べる。	220
8	注意障害 認知機能の中の注意障害について	講義（伊林）	注意障害に関係する前頭葉や頭頂葉の神経学的基盤について予習する。	220

【科目名】	発達障害		【担当教員】	道関 京子
【授業区分】	専門科目	【授業コード】	dbhs 116	(メールアドレス)
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	doseki@nur.ac.jp
【単位数】	1	【コマ数】	8	(オフィスアワー) 土曜・日曜12～13時、火曜17～19時
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
発達および発達障害に関する基礎的概説を習得しておいてほしい。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
最初に課題を振り分ける。自分の課題をまとめて発表する準備に関連づけながら講義に参加すること。				
【講義概要】				
(目的)				
<ul style="list-style-type: none"> ・発達障害を真に理解するために、人間は思考や概念をどのように獲得し、互いが互いの道具として高次化(発達)してきたかを理解する。 ・発達障害における各課題について議論できる。 				
<ul style="list-style-type: none"> ・当該科目と学位授与方針等との関連性：専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。 				
(方法)				
<ul style="list-style-type: none"> ・人間研究学の第一の問題である随意性について、施行と言語を代表に複雑な発達過程を解明していき、さらに思考と言語をつなぐ内言の構造や体験(情動・身体・運動)の役割をVygotsky心理学を中心に解説する。 ・広く人間の随意性を理解したうえで、具体的な支援やリハビリテーション・研究を考えていく。 				
<ul style="list-style-type: none"> ・課題に対するフィードバックの方法は、発表の場で解説を行うが、内容により拡大した解説時間をとる。 				
【一般教育目標(GIO)】				
発達障害を理解するために、人間の概念と言語の発達における複雑な階層から考察できるようになる。				
【行動目標(SBO)】				
<ul style="list-style-type: none"> ・概念発達における心理学・神経心理学の展開と課題を概説できる。 ・思考と言語の発達と関係を、系統発生・個体発生および脳神経学、心理学的観点から説明できる。 ・内言の成立と構造や機能について説明できる。 ・発達障害の思考段階を考察できる。 				
【教科書・リザーブドブック】				
教科書；ヴィゴツキーLS、思考と言語 新訳版、柴田義松訳、新読書社、2001年、¥4,180 (税込)				
【参考書】				
<ul style="list-style-type: none"> ・ヴィゴツキー、新児童心理学講義、柴田義松他訳、新読書社、2014年、¥2,860 (税込) ・Vygotsky's Educational Theory in Cultural Context. Alex Kozulin et al. (Eds), Cambridg University Press, 2003. 				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規定に従う。成果(課題)発表を課する。成果発表50%、実技(討議力など)50%の割合で成績評価する。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合					50	50			100
評価指標	取り込む力・知識				25				25
	思考・推論・創造の力					25			25
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力				25				25
	学修に取り組む姿勢					25			25

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	Vygotsky心理学の科学性 教科書「序、1章」を中心に講義 問題の捉え方(発達とは何か)と研究方法論(単位の研究)	講義・討議	教科書序と1章と資料を復習し Vygotsky心理学の基盤を確実に理解する。	220分
2	・ピアジェの代表される成熟に依存する心理学 やシュテルンに代表される人間特殊性に帰属する心理学の問題点 ・人間科学としての神経心理学とは何か	講義・討議	・教科書2章3章と資料を復習する。 ・担当課題の準備を開始する。	220分
3	思考と言語の発生的根源と脳組織化 ・系統発生・個体発生・脳研究との関連 ・発達障害観察にいかに対応するか	講義・討議	・教科書4章と資料を復習する。 ・担当課題をまとめる。	220分
4	概念発達研究 ・意味(概念と言語)発達の研究1 ・高次脳機能それぞれの共通単位の研究思考と言語の共通単位(意味)の研究 ・集合段階から複合段階へ	講義・討議	・教科書5章(前半)と資料を復習する。 ・担当課題の抄録を作成する。	220分
5	概念発達研究 ・意味(概念と言語)発達の研究2 ・擬概念段階	講義・討議	・教科書5章(後半)と資料を復習する。 ・担当課題の発表原稿を作成する。	240分
6	概念発達研究 ・意味(概念と言語)発達の研究3 ・真の概念の獲得	講義・討議	・教科書5章(後半)と資料を復習する。 ・担当課題の発表原稿を作成する。	240分
7	概念発達と内言の臨床 ・概念構造化障害(発達障害・超皮質性感覚障害) ・概念接近障害(失名辞失語) ・内言障害(発達障害、超皮質性運動失語)	講義・討議	教科書7章と資料を復習し、リハビリ臨床をまとめる。	220分
8	担当課題の発表と討議	講義・討議	発表時の質問や指摘、コメントを調べ解決する。	220分

【科目名】		失語・失読・失書		【担当教員】		道関 京子	
【授業区分】		専門科目	【授業コード】	dbmhs 117			
【開講時期】		後期	【選択必修】	選択			
【単位数】		1	【コマ数】	8			
【注意事項】							
(受講者に関わる情報・履修条件)							
(受講のルールに関わる情報・予備知識)							
【講義概要】							
(目的)							
<ul style="list-style-type: none"> ・高次脳機能障害の代表として失語症・失読症・失書症を構造的に理解する。 ・流暢・非流暢判断の土台である発話文とは何かを科学的に理解し、リハビリテーションに活用する力を身につける。 ・当該科目と学位授与方針等との関連性：専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。 							
(方法)							
<ul style="list-style-type: none"> ・失語・失読・失書の問題を構文論から考えて展開する。 ・講義ごとに症例検討し高次脳機能へのリハビリテーションの臨床研究も共に考えていく。 ・課題やレポート等に対するフィードバックの方法は、質問や意見およびレポート課題に対して解説し、時間外にも延長し十分時間をとる。 							
【一般教育目標(GIO)】							
<ul style="list-style-type: none"> ・失語の構造について知るために、構文（統語）の観察が言語リハビリテーションの土台となることを理解する。 							
【行動目標(SB0)】							
<ul style="list-style-type: none"> ・失語症の各症候群の鑑別ができる。 ・失語症各タイプの統語構造の問題の差について説明できる。 ・失語症のリハビリテーションの基礎を説明できる。 							
【教科書・リザーブドブック】							
<ul style="list-style-type: none"> ・教科書；渡辺実、国語文法論、笠間書院、1997年、¥1,760（税込） ・適時、資料を配布する。 							
【参考書】							
<ul style="list-style-type: none"> ・Luria AR、神経心理学の基礎-脳のはたらき、鹿島晴雄訳、創造出版、2019年、¥8,800（税込） ・道関京子、新版 失語症のリハビリテーション 全体構造法、基礎編・応用編、医歯薬出版、2016年、¥4,180・¥4,400(税込) 							
【評価に関わる情報】							
(評価の基準・方法)							
<p>本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規定に従う。 実技（授業中の討議への取り組み）50%、レポート50%の割合で成績評価する。</p>							

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				50		50			100
評価指標	取り込む力・知識			25					25
	思考・推論・創造の力			25		25			50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢					25			25

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	<ul style="list-style-type: none"> 失語症研究の課題と問題点 失語症のタイプ分類の意味と目的 タイプ診断、流暢/非流暢分類・古典分類ほか 分類の基本である発話とは何か 	講義・討議	失語分類とその神経学的領域との関連についてか復習する。	220分
2	<ul style="list-style-type: none"> 発話文の構文 構文とは語が文中で果たす役割であり、語の文中機能から失語症の各タイプの問題を理解する 	講義・討議	教科書(p3-18)と資料を復習する。	220分
3	<ul style="list-style-type: none"> 統叙・陳述の機能 叙述(命題・情報)と陳述(モダリティ)の理解とその障害 	講義・討議	教科書(p19-55)と資料を復習する。	220分
4	<ul style="list-style-type: none"> 連用・連体の機能 日本語格関係の理解とその障害(失文法) 	講義・討議	教科書(p56-89)と資料を復習する。	220分
5	<ul style="list-style-type: none"> 誘導の機能 陳述副詞などの理解とその障害(TCM失語) 	講義・討議	教科書(p129-146)と資料を復習する。	220分
6	構文論を生かした失語症リハビリテーションを考える1 <ul style="list-style-type: none"> 非流暢失語に対して述部および陳述の重視 	講義・討議	失語症のリハ応用編(p34-49)と資料を復習する。	220分
7	構文論を活用した失語症リハビリテーションを考える2 <ul style="list-style-type: none"> 求心性運動失語やウエルニッケ聴覚-記憶型失語の把持力改善に対して構文論の活用 	講義・討議	失語症のリハ応用編(p49-54)と資料を復習する。	220分
8	構文論を活用した失語症リハビリテーション3 <ul style="list-style-type: none"> 健忘失語に対する陳述の活用 	講義・討議	失語症のリハ応用編(p81-90)と資料を復習する。	220分

【科目名】	認知科学・認知機能障害		【担当教員】	伊林 克彦
【授業区分】	専門科目	【授業コード】	dBmh205	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	
【単位数】	1	【コマ数】	8	
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
学部で履修した神経学や神経解剖学を予習しておくことが望ましい。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
その日学んだ事柄について頭の中で整理できるまで十分復習する。				
【講義概要】				
(目的)				
記憶障害や行為・遂行機能障害、失語症等を含む高次脳機能障害に罹患し、日常生活及び社会生活に支障をきたす認知症について包括的に学ぶ。また、認知症の病態を検索するためのWAIS-R, Wisconsin Card Sorting Test, 及びCDR等種々の神経心理学検査法を履修する。認知症患者の行動を分析し、脳血管性認知症と変性疾患による認知症との鑑別についても学ぶ。				
【学位授与の方針と当該授業科目の関連】 専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。				
(方法)				
さらに各種の検査法を用いて認知症の症状を抽出し、それらの症状についての対応を学ぶ。そのうえで認知症の症状を段階的にとらえ、家庭内や地域におけるリハビリテーションの可能性について各ステージ毎に模索する。加えて認知症患者の治療法についても種々の文献検索等を通して実践的に学ぶ。				
【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】				
質問などに対し、メール又は口頭で随時対応を行う。				
【一般教育目標(GIO)】				
・認知症患者の病態について、疾患別・原因別に分けてそれぞれの障害像を把握する。				
【行動目標(SB0)】				
・認知症患者に役立つトレーニング機器の研究及び開発を心がける。				
【教科書・リザーブドブック】				
プリント配付、パワーポイントによる講義				
【参考書】				
「痴呆の臨床」 目黒謙一著 2004年（医学書院）2800円				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
成績評価基準は、本学学則・授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規程に従う。試験80%、授業・課題への取り組み20%の割合で総合的に評価を行う。				
1日分の講義を欠席し、出席要件を満たさない場合は他に課題を課す。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		80						20	100
評価指標	取り込む力・知識	80						20	100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	認知症とは、 記憶障害 認知症の定義と評価法	講義	WAIS・MMSEなどの知能および認知検査の復習	220
2	血管性認知症と変性疾患による認知症。 見当識障害と視空間機能の障害 血管性認知症および変性疾患で生ずる認知症の成立機序を学ぶ	講義	脳血管障害や変性疾患の類型と特質を知る。	220
3	行為障害 認知症の評価(実践Ⅰ) 行為障害の病態を知る。 各種認知機能の検査法を実践する。	講義・実技	認知症の診断に必要な各種検査法の復習	220
4	認知症の評価(実践Ⅱ) ディスカッション 各種認知機能の検査法を実践する。 3までに学んだ事柄につき検討する。	講義・実技・討議	認知症の診断に必要な各種検査法の復習	220
5	認知症の評価(実践Ⅲ) 各種認知機能の検査法を実践する。	講義・実技	認知症の診断に必要な各種検査法の復習	220
6	認知症の治療・訓練(Ⅰ) 認知症の治療・訓練を実践する。	講義・実技	認知症の治療・訓練の復習	220
7	認知症の治療・訓練(Ⅱ) 認知症の治療・訓練を実践する。	講義・実技	認知症の治療・訓練の復習	220
8	まとめ	講義	復習	220

【科目名】 運動機能科学総論		【担当教員】 高橋 洋	
【授業区分】 専門科目	【授業コード】 dbMhs118	(メールアドレス)	
【開講時期】 前期	【選択必修】 必修	hiroshit@nur.ac.jp	
【単位数】 1	【コマ数】 8	(オフィスアワー) 来校時に随時	
【注意事項】			
(受講者に関わる情報・履修条件) 運動機能科学コースの学生は必修科目			
(受講のルールに関わる情報・予備知識) サテライトに来れる日時を打ち合わせて日取りを決めましょう。			
【講義概要】			
(目的) 理学療法及び関連分野の運動器等に対するアプローチを紹介する。			
(方法) スライドによる講義、実技			
【一般教育目標(GIO)】 関連分野からの情報を知り理学療法のヒントとする。			
【行動目標(SBO)】 研究分野との関連性を考察できる。			
【教科書・リザーブドブック】 プリントを配布する。			
【参考書】 講義内容の欄参照。			
【評価に関わる情報】			
(評価の基準・方法) レポート			

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				100					100
評価指標	取り込む力・知識			100					100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	オリエンテーション 姿勢コントロール (Jane Johnsonn著 武田功 弓岡光徳監訳「姿勢コントロール」)	講義	解剖、運動学の復習	220分
2	筋性疼痛症候 小林紘二 緒「筋性疼痛症候の臨 床観察(上巻)」	講義	解剖の復習	220分
3	殿筋からのアプローチ John Gibbons著 木場克 己監訳「強める!殿筋」	講義	解剖の復習	220分
4	同上	同上	同上	220分
5	変形性関節症 井原秀俊、加藤浩、木藤伸宏編集 「多関節運動連鎖から見た変形性関節症の保存療 法」	講義	運動学の復習	220分
6	体幹と骨盤評価 鈴木俊明監修「体幹と骨盤の評 価と運動療法」	講義	解剖の復習	220分
7	同上	同上	同上	220分
8	東洋医学的アプローチ 向野義人、松本実由季、 山下なぎさ 著「M-Test 経絡と動きでつかむ症候 へのアプローチ」 まとめ	講義	解剖の復習	220分

【科目名】	地域・老年期リハビリテーション論		【担当教員】	小林 量作、松林 義人	
【授業区分】	専門科目	【授業コード】	dbmh 119		
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択		
【単位数】	2	【コマ数】	15		
【注意事項】	<p>(受講者に関わる情報・履修条件)</p> <p>【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生の担当回の課題は、自身の研究テーマに関する内容を紹介する。発表前に希望があれば随時指導を行う。 2. 小林担当の講義課題について：各自のレポートは全学生を統合して教員のコメントも加えて返却する。 3. 松林担当の講義課題について：高齢者の医学的トピックス1～6の中でテーマを一つ選択し、レポート課題を提出する。 <p>(受講のルールに関わる情報・予備知識)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 欠席は事前連絡する。予習では最低1つの質問を考えておき、討論授業では最低1回の発言をする。 				
【講義概要】	<p>(目的)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 老年期（高齢者）に伴う様々な医学的問題、地域リハビリテーション（理学療法、作業療法など）の実際について、教員の講義と学生との討論による方法で学習する。 <p>【学位授与の方針と当該授業科目の関連】</p> <p>専門領域を超えて深く問題を探求する姿勢を培い、物事を探求し問題解決できる能力を身に付けることで、社会に貢献する。</p> <p>(方法)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 大学院では、学生自身の研究テーマの視点から積極的に討論に参加する。 2. 教員への質問、意見は教員のアドレスに送信する。どんな些細なことでもよい。 3. 小林、松林の講義は、原則として交互（同一教員が隔週となる）に行われる。 				
【一般教育目標(GIO)】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 超高齢社会の現状、高齢者の介護予防、地域包括ケアシステムを中心とした地域リハビリテーション（以下、リハ）の考え方、および最近のロコモティブ症候群、サルコペニア、フレイルなどのトピックスについて理解する。 				
【行動目標(SB0)】	<ol style="list-style-type: none"> 1. 超高齢社会の現状と課題について説明できる。 2. 老年症候群、ロコモティブ症候群、サルコペニア、フレイルなど最近のトピックスについて学習する。 3. 地域リハビリテーションの考え方、実際について学習する。 				
【教科書・リザーブドブック】	指定なし。 授業テーマに応じて資料を提供する。				
【参考書】	<p>牧迫飛雄馬、他、編、『高齢者理学療法』2017. 東京. 医歯薬出版.</p> <p>牧田光代、他、編、『地域理学療法』（第4版）2017. 東京. 医学書院.</p>				
【評価に関わる情報】	<p>(評価の基準・方法)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 成績評価基準は、本学学則・授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行規則、GPAに関する規程に従う。 2. 成績評価は、レポート・出欠により総合的に評価する。 3. レポート（80%）、出席・授業への取り組みなど（20%）で評価を行う。 				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				80				20	100
評価指標	取り込む力・知識			80				20	100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	オリエンテーション 超高齢社会の課題 ・授業の進め方、履修学生の紹介など ・社会的問題、医学的問題	講義(小林)、討論(Web) 講義(松林)		
2	高齢者の医学的トピックス1 ・老年症候群	講義(松林)		予習30分
3	高齢者の医学的トピックス2 ・ロコモティブ症候群	講義(松林)		予習30分
4	高齢者の医学的トピックス3 ・サルコペニア	講義(松林)		予習30分
5	高齢者の医学的トピックス4 ・フレイル	講義(松林)		予習30分
6	高齢者の医学的トピックス5 ・転倒骨折	講義(松林)		予習30分
7	高齢者の医学的トピックス6 ・閉じこもり、認知症 ・レポート課題について	講義(松林)		予習30分
8	地域リハビリテーションとは ・地域リハの定義・範囲、CBR、地域包括ケアシステム	講義(小林)、討論(Web)		予習30分

9	地域リハと予防 学生発表 ・予防とは、地域「通いの場」など	講義(小林)、討 論 (Web)		予習30分
10	訪問理学療法、学生発表 ・訪問理学療法の実際、事例検討など	講義(小林)、討 論 (Web)		予習30分
11	通所理学療法、学生発表 ・通所理学療法の実際、事例検討など	講義(小林)、討 論 (Web)		予習30分
12	地域リハのリスク管理、学生発表 ・リスク管理とは、在宅でのリスク管理	講義(小林)、討 論 (Web)		予習30分
13	地域リハと住宅改修、学生発表 住宅改修の実際	講義(小林)、討 論 (Web)		予習30分
14	地域リハと福祉用具、学生発表 福祉用具の定義・範囲、実際	講義(小林)、討 論 (Web)		予習30分
15	授業全体のまとめ ・これまでの授業での質問・討論	講義(小林)、討 論 (Web)		予習30分

【科目名】	生活環境科学（住環境・ADL）		【担当教員】	貝淵 正人
【授業区分】	専門科目	【授業コード】	dmh 122	(メールアドレス)
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	masuda@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	8	(オフィスアワー) 火～木 9:30～12:40
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
<p>ひとの生活を豊かにしていくために、自身の研究テーマがひとの生活にどのような形で関連しているのかについて、興味・関心を持って受講することが望ましい。</p> <p>【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】 研究論文の抄読について、発表前・発表時・発表後に随時指導を行う。</p>				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
<p>学生自身の研究テーマがひとの生活にどのような形で関連しているのかについて、文献抄読などを通して整理しておくことが望ましい。</p> <p>【課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法】 研究論文の抄読について、発表前・発表時・発表後に随時指導を行う。</p>				
【講義概要】				
(目的)				
<p>生活環境科学（住環境・ADL）に関連した教員による講義と学生による国内外の研究論文抄読を通して、ひとの生活を豊かにするための臨床実践と研究証拠（エビデンス）の創出について学修する。英文の論文を最低でも1本ずつ抄読する。</p>				
(方法)				
<p>学生自身の研究テーマと関連付けながら、積極的に討論に参加してください。実践と研究の双方から検討していきたいと思いません。</p>				
【一般教育目標(GIO)】				
<p>さまざまな運動機能障害や認知機能障害を有するひとにとって、暮らしやすい生活環境について考えるために、リハビリテーション領域における実践と国内外の研究証拠（エビデンス）について理解する。</p>				
【行動目標(SB0)】				
<ol style="list-style-type: none"> 1. ひとの生活環境に関連した国内外の研究論文を読み、その内容と研究法について具体的に説明できる。 2. 運動機能障害や認知機能障害を有するひとへの住環境整備やADL支援の実際について紹介できる。 3. 生活環境の評価（特に、住環境評価とADL評価）の視点と構造について理解できる。 4. 自身の研究テーマとひとの生活との関連について具体的に述べるができる。 				
【教科書・リザーブドブック】				
<p>必要に応じて資料等を配布します。</p>				
【参考書】				
<p>特になし</p>				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
<p>成果物ならびにプレゼンテーションの内容にて評価します</p>				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合					80	20			100
評価指標	取り込む力・知識				50				50
	思考・推論・創造の力				30				30
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力					20			20
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	リハビリテーションにおける生活環境科学（住環境・ADL）の位置づけ ひとの生活と住環境・ADL（IADLを含む）との関連について		自身の研究テーマとひとの生活との関連を明らかにする	90分
2	住環境評価とADL評価 ADL（IADLを含む）評価とそれに関連した住環境評価の視点について		国内外の研究論文を収集し、文献抄読を行うこと	90分
3	運動機能障害と住環境整備 運動機能障害を有するひとに対する住環境整備とADL支援の方法論		国内外の研究論文を収集し、文献抄読を行うこと	90分
4	認知機能障害と住環境整備 認知機能障害を有するひとに対する住環境整備とADL支援の方法論		国内外の研究論文を収集し、文献抄読を行うこと	90分
5	転倒転落と住環境の関連 在宅における転倒転落場面と住環境整備について		国内外の研究論文を収集し、文献抄読を行うこと	90分
6	科学技術を用いた住環境とADL ICTやVRなどの科学技術を活用した住環境整備とADL支援の実践例について		国内外の研究論文を収集し、文献抄読を行うこと	90分
7	公共交通機関・公共建築におけるバリアフリー 障害のあるひとが外出しやすいような物理的環境整備のあり方について		国内外の研究論文を収集し、文献抄読を行うこと	90分
8	「障害の社会モデル」と「心のバリアフリー」 障害のあるひとに対する合理的配慮および社会的態度について		国内外の研究論文を収集し、文献抄読を行うこと	90分

【科目名】	動作測定技法 I		【担当教員】	浅海 岩生
【授業区分】	専門科目	【授業コード】	dm 127	(メールアドレス)
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	igasami@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	8	(オフィスアワー) 月曜～金曜(9-17時) メールで対応
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
<ul style="list-style-type: none"> ・この授業はWEB授業対応授業です (Office365の設定が必要です)。Teamsを使用して授業を配信します。 ・必ず事前学修を実施してください。 ・測定や分析が行われたコマではレポート課題を提出してもらうことがあります。 				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
<ul style="list-style-type: none"> ・課題は必ず期限内に出すようにしてください。(課題提出はMicrosoft Teamsを使用してください。) 				
【課題 (試験やレポート等) に対するフィードバックの方法】				
<ul style="list-style-type: none"> ・必要に応じ受講者全員または個人にコメントする。 ・課題レポートの解答例を授業内で説明します。 				
【講義概要】				
(目的)				
<ul style="list-style-type: none"> ・この講座では、マイクロコンピュータMICRO:BITを使用し反応時間・圧力(ピンチ力)・加速度などを測定する方法を理解することにより、人間の動作を時間的・力学的に分析する手法を学びます。 				
(方法)				
<ul style="list-style-type: none"> ・マイコンボードを使用し、運動学的変数(反応時間、加速度、力など)を収集するプログラムを開発する手法を理解する。 				
【学位授与の方針と当該授業科目の関連】				
<ul style="list-style-type: none"> ・高度な知識の活用能力、批判的・論理的思考力、表現能力、プレゼンテーション能力等を総合する力を培う 				
【一般教育目標(GIO)】				
<ul style="list-style-type: none"> ・マイクロコンピュータの基本的使用方法について理解する。 ・コンピュータによる動作の反応時間・圧変化・加速度・角度の測定法について理解する。 				
【行動目標(SB0)】				
<ul style="list-style-type: none"> ・マイクロコンピュータを使用し反応時間・圧力・加速度・角度を測定できる。 ・この方法を運動学的分析に応用できる。 				
【教科書・リザーブドブック】				
<ul style="list-style-type: none"> ・下記の教材を用意することが望ましい。 OSOY00 BBC micro:bit(マイクロビット) 初心者向け プログラム・STEM学習 基本キット 3500円(Amazon) 				
【参考書】				
<ul style="list-style-type: none"> ・MICRO:BIT ホームページ https://microbit.org/ja/ 				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
<ul style="list-style-type: none"> ・本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。 ・成績評価は、レポート80%、授業に取り組む姿勢20%(宿題・ノートの整理状況など)とする。 				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				80				20	100
評価指標	取り込む力・知識			80				20	100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	<ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション (Office365・Teamsの使用方法を含む) ・マイクロコンピュータでできる運動学的解析 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の進め方を説明する。 ・講義・演習 	<ul style="list-style-type: none"> ・Teamsにログインし講義の内容を確認する。 ・課題作成と提出 	30分 60分
2	<ul style="list-style-type: none"> ・マイクロコンピュータの基本構造とプログラミングの基礎 	<ul style="list-style-type: none"> ・講義・演習 ・IDEのインストールと操作の基本 	<ul style="list-style-type: none"> ・MICRO:BITとは何か調べておく。 ・プログラムの基本文法 ・課題の作成と提出 	30分 60分
3	<ul style="list-style-type: none"> ・スイッチのON, OFFを検知する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・講義・演習 ・スイッチを使用したプログラムを作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・スイッチの種類について調べておく。 ・課題の作成と提出 	30分 60分
4	<ul style="list-style-type: none"> ・反応時間を測定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・講義・演習 ・スイッチを使用して反応時間を測定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・時間を測る方法について調べておく。 ・課題の作成と提出 	30分 60分
5	<ul style="list-style-type: none"> ・ピンチ力を測定する。 ・感圧センサーを使用した計測法・ブザーによるバイオフィード 	<ul style="list-style-type: none"> ・講義・演習 	<ul style="list-style-type: none"> ・A/D変換とは何か調べておく。 ・課題の作成と提出 	30分 60分
6	<ul style="list-style-type: none"> ・測定値をグラフィック表示する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・講義・演習 	<ul style="list-style-type: none"> ・Processingとは何か調べておく。 ・課題の作成と提出 	30分 60分
7	<ul style="list-style-type: none"> ・加速度を測定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・講義・演習 ・加速度センサーよりのデータを取得する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・加速度により測定できる運動学的因子を調べる。 ・課題の作成と提出 	30分 60分
8	<ul style="list-style-type: none"> ・角度を測定する。 ・まとめ 	<ul style="list-style-type: none"> ・講義・演習 ・加速度の分析プログラムを作成する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・角度を測るプログラムを考えておく。 ・課題の作成と提出 	30分 60分

【科目名】	生活支援デバイス論（補装具など）		【担当教員】	貝淵 正人
【授業区分】	専門科目	【授業コード】	dm 129	(メールアドレス)
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	kaifuchi@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	8	(オフィスアワー) 月～金、10:00-16:00
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
主に環境因子の観点から生活機能に障害をきたした人の気持ちになって生活を考えましょう。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
住宅改修案レポート提出。添削し返却します。 福祉用具導入案レポート提出。添削し返却します。 定期末試験。採点后返却します。				
【講義概要】				
(目的)				
リハビリテーション専門職は、障害を個人の要因（心身機能・身体構造、年齢など）として捉えるとともに、生活環境からとらえています。本講義では、生活環境を、住居や公共交通機関など物理的環境や、福祉用具の活用による代償的アプローチも行っています。これらの生活環境の整備・改善また福祉用具の活用による生活の改善方法について修得する。専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。				
(方法)				
住環境整備や福祉用具導入は、リハビリテーション専門職以外に、建築家、工務店、ケアマネージャー、介護福祉士など多くの専門家が関わっています。これらの専門職連携についても感じてもらえたらと思っています。				
【一般教育目標(GIO)】				
障害者、高齢者を取り囲む快活環境のバリアーを理解し、QOL向上のための生活環境整備や福祉用具の活用方法を習得し、障害者の生活支援ができることを目的とする。				
【行動目標(SB0)】				
<ul style="list-style-type: none"> 生活環境の概念について理解する。 住環境整備の意義や内容を説明できる。 A D Lの中で活用される福祉用具を挙げるができる。 				
【教科書・リザーブドブック】				
必要に応じプリントを配布します。				
【参考書】				
玉垣 努 編：福祉用具・住環境整備の作業療法。中央法規出版。2013。3800円。 加島守 編：自立支援のための福祉用具ハンドブック。東京都福祉保健財団出版。2013年。2604円。				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。 住宅改修に関するレポート40%。福祉用具に関するレポート40%。期末試験20%。				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合		20		80					100
評価 指標	取り込む力・知識	20		80					100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	ノーマライゼーション・バリアフリー・ユニバーサルデザイン・QOLの概念 生活環境の概念、考え方を理解する			90
2	福祉用具の概念 福祉用具とはどういった分類になるのか			90
3	暮らしと生活環境 ハートビル法などの理念を理解する。日本家屋における問題点を理解する			90
4	介護保険と福祉用具 介護保険で利用できる内容と範囲			90
5	生活支援機器 生活支援機器導入のポイントを理解する			90
6	ADLの活動分析と代償方法 ADLの種々の福祉用具やSHDを正しく使用できる			90
7	グループで住宅改修案を事例を通して考える			90
8	グループで福祉用具導入を事例を通して考える			90

【科目名】	運動発達障害特論		【担当教員】	押木 利英子
【授業区分】	専門科目	【授業コード】	dbmh 130	(メールアドレス)
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択	oshiki@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	1	【コマ数】	8	(オフィスアワー) 月、水、木 11:00 ~ 16:00
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
<p>基本的な正常運動発達について理解している、または興味・関心があることが望ましい。 *この科目は小児医療センター等で臨床経験を積んだ実務家教員が担当します。</p>				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
<p>事前に正常運動発達、運動発達障害に関する知識の整理、及び文献を調べておくことが望ましい。受講者の背景に合わせて、レポートの添削を行う。個人の希望や必要に応じて解説する。【課題】毎回(1~7回)授業の最後に簡単な課題を出す。(200字程度)この課題レポートを作成し、メールで押木宛に送信する。【試験】筆記試験は行わない。最終回後に事例検討レポートを課し、これと毎回提出のレポートとの総合点を試験結果とする。</p>				
【講義概要】				
(目的)				
<p>運動発達障害の概念や発生機序を理解するとともに、運動障害児の治療効果検証について理解することを目的とする。また、発達理論や研究法の学習を通して最新の知見を学び、PT、OT、STの視点から小児リハビリテーションあり方について学ぶ。</p>				
(方法)				
<p>専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。 ともに学びましょう！</p>				
【一般教育目標(GIO)】				
<ul style="list-style-type: none"> ・運動発達障害の機序について理解する。 ・運動発達と知覚・認知・行動発達の関係性について理解する。 ・運動発達障害に対する最新の知見を習得する。 				
【行動目標(SBO)】				
<ul style="list-style-type: none"> ・小児リハビリテーションのフィールドにおいて、運動発達の重要性と具体的な提言が出来る。 				
【教科書・リザーブドブック】				
<ul style="list-style-type: none"> ・特になし(講義中に随時紹介する) 				
【参考書】				
<ul style="list-style-type: none"> ・特になし(講義中に随時紹介する) 				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
<ul style="list-style-type: none"> ・本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。 ・毎回の授業後課題50%、事例検討レポート50%の提出状況、内容を評価し、単位授与とする。 				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				100					100
評価指標	取り込む力・知識			100					100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	運動発達とは何かその視点 運動発達の機序について概説する		正常運動発達について理解する	60分
2	運動発達の特徴と原理 “動くこと” “動けること” (発達の原点) の意味を考える		発達指標について理解する	60分
3	運動発達障害特論(1) 運動発達と脳の可塑性について ～その可能性と障害～		運動発達の多様性について理解する	60分
4	運動発達障害特論(2) 運動発達の阻害因子の見方と小児理学療法の治療体系		事例を通して小児理学療法の治療体系について理解する。	60分
5	運動発達評価と発達原理 発達検査と評価の方法、 運動学習システムと発達理論		子どものハビリテーションについて考える。	60分
6	私の臨床研究論と紹介 運動発達障害研究に対する私論と今までやってきた研究の紹介と解説		自分自身の研究の意義を考える	90分
7	臨床活動における連携協働の重要性 小児臨床における連携教育(IPE)と連携協働(IPW)の重要性について ～その歴史と現状～		あなたのIPE, IPWを振り返る	90分
8	事例検討 まとめ	事例検討(モジュールを使用して) レポート作成	提示された事例について検討する。	120分

【科目名】	心の健康科学総論(心の健康教育に関する理論と実践)		【担当教員】	宮岡 里美
【授業区分】	専門科目	【授業コード】	dbmHs 131 (メールアドレス)	
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修 miyaoka@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】	1	【コマ数】	8 (オフィスアワー) 平日12:40-13:30, 他研究室在室時	
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
<p>※本科目は「公認心理師」の受験資格を取得する上での指定科目で、「心の健康教育に関する理論と実践」について学びます。他、心理学の専門領域以外の大学院全ての院生も受講可能です。「心の健康」は保健・医療・福祉領域で重要な課題です。</p>				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
<p>欠席する場合は事前連絡が望ましい。その場合は振替講義を検討します。 積極的態で受講していただきたいです。関心あるテーマは自身で情報収集し、問題提起し、意見交換していく姿勢を望みます。</p>				
【講義概要】				
(目的)				
<p>多様な価値観、高度に複雑化した競争社会の中で、緩むことのない心の緊張が‘心の病’を生み出し、さまざまな疾患を発症させています。本科目では、ストレスのメカニズムとその対処法(ストレス・マネジメント)の基本的な知識を講じていきます。将来、「心の健康」に関する知識普及を図ることができるよう、その支援/教育法にも触れていきます。 当該科目と学位授与方針との関連性:「専門領域に関する多様な課題を発見・分析し、自ら解決する能力を培う。」</p>				
(方法)				
<p>Power Point スライドを使用しての講義が中心となります。 毎回試料の配布を行い、参考文献を紹介する。 レポートや授業中に実施した心理テスト等のデータは、コメントを付して返却します。</p>				
【一般教育目標(GIO)】				
<p>「健康とは何か？」を国際的定義から説明できる。 ストレスが脳/身体/心へ及ぼす影響、そして疾患との関係を科学的根拠に基づいて説明できる。</p>				
【行動目標(SB0)】				
<p>‘いじめ’や自殺は現代の大きな社会問題です。その根底に潜むストレスを正しく理解し、適切な心の支援へと繋ぐことができることを行動目標とします。 心の健康の維持増進のために、あるいはそれが損なわれたケースに対して、適切な心理学的支援ができる。 ライフサイクルにおける各年代、社会的役割等におけるストレスを知り、適切なマネジメントあるいは支援ができる。</p>				
【教科書・リザーブドブック】				
特に指定せず、必要な資料は配布する。				
【参考書】				
<p>ラザルス&フォークマン著・本明寛他訳/ストレスの心理学/実務教育出版/1991年/5,872円 厚生労働省「健康日本21(第二次)」内、「こころの健康」を参照のこと。 Newton 別冊ムック「脳と心:脳の最新科学,そして心との関係」(株)ニュートンプレス(2010/11/15) ¥2,415(税込)</p>				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
<p>レポート80%、授業への参加態度20%の割合で評価する。出席点は評価に含めない。 本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。</p>				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				80				20	100
評価指標	取り込む力・知識			80				20	100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間(分)
1	健康心理学とは ストレスとは？□ ・「健康」の定義 ・演習：精神健康調査票 (GHQ 28) ・ストレッサーとストレス反応		WHO：QOLから「心の健康」を考える	15分
2	ストレスに対する心理的反応 ・不安 ・演習：顕在性不安尺度(MAS) ・怒りと攻撃性 ・アパシーと抑うつ感		顕在性不安尺度(MAS)の結果処理と考察	20分
3	ストレスに対する生理的反応 ストレスによる身体への影響 ・闘争-逃走反応：生理的メカニズム ・汎適応症候群 ・タイプA行動とその修正支援		タイプA行動チェック実施と結果考察	20分
4	PTSD ・PTSDの定義 ・演習：PTSDチェック ・PTSDの発症要因 ・発症メカニズム ・自然災害とPTSD ・心理学的支援法		PTSDチェックリストから、その発症要因を理解する。	15分
5	ストレスによる健康への影響 ストレス関連疾患 ・パニック障害 ・うつ ・演習：BDI/SDS ・依存症(薬物、アルコール等)		20～30代のワークライフバランスをストレス関連疾患から検討する。	20分
6	ストレス理論 ストレス耐性 ・精神分析理論 ・行動理論 ・認知理論 ・ハーディネス ・楽観主義 ・意味を見出す		各学派の考え方から身近なストレス事例を考察する。 心の支援の実践を試みる	15分
7	ストレスコーピング 自殺予防 ・行動療法・運動療法・認知行動療 ・自己コントロール/心理的サポート ・リスク要因と適切な予防法		各自の日常生活におけるコーピング法を考案する。	15分
8	ライフサイクルとストレス 「健康日本21」にみる「心の健康づくり」 家庭/学校/職場でのストレス ・児童虐待/いじめ/高齢者虐待を考える		いじめの原因・要因を多角的に考察する。以上から、「心の健康づくり」を提言する。	20分

【科目名】 アイデンティティ形成とリハビリテーション心理学		【担当教員】 藤澤 和子	
【授業区分】 専門科目	【授業コード】 dbmh 134	(メールアドレス)	
【開講時期】 後期	【選択必修】 選択	fujisawa@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】 1	【コマ数】 8	(オフィスアワー) 講義日に対応する。	
<p>【注意事項】</p> <p>(受講者に関わる情報・履修条件)</p> <p>特に心理学の専門知識を必要としない。</p> <p>(受講のルールに関わる情報・予備知識)</p> <p>積極的な態度で受講して下さい。関心あるテーマは自身で情報収集し、問題提起し、意見交換していく姿勢を望む。専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。</p>			
<p>【講義概要】</p> <p>(目的)</p> <p>アイデンティティ（自我同一性）の形成過程を生涯発達の中で講じていく。アイデンティティの形成は青年期に始まるものではなく、誕生まもない乳児が自己の欲求を発信した際に養育者から適切な反応が得られるか否かの時点から既に始まっていることを理解する。たとえ青年期に形成されたとしても、それで完結するものではなく、“アイデンティティの形成”という課題は軌道修正を繰り返しながら一生続くものであることを各自の生涯の課題として受けとめ、このアイデンティティ形成が困難な側面にも言及していく。</p> <p>(方法)</p> <p>配布資料と参考書を使用して講義を行う。青年期の課題については、事例や事象を討議する。授業中に実施したレポートはコメントを付して返却する。</p>			
<p>【一般教育目標(GIO)】</p> <p>アイデンティティ感覚は多種多様な人とかかわりの中で形成されていくものであることが理解できる。</p> <p>【行動目標(SB0)】</p> <p>客観的に自己を認識でき、自己コントロール感がもてる。</p>			
<p>【教科書・リザーブドブック】</p> <p>特に指定せず、必要な資料は配布する。</p>			
<p>【参考書】</p> <p>発達心理学 藤村宣之編著（ミネルヴァ書房） 講義の中で適宜紹介する。</p>			
<p>【評価に関わる情報】</p> <p>(評価の基準・方法)</p> <p>本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。 レポート100%で評価する。</p>			

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				100					100
評価指標	取り込む力・知識			50					50
	思考・推論・創造の力			50					50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	新生児と家族との相互関係からアイデンティティの基盤形成を学ぶ。	講義	配布した資料を読んでおく。	30分
2	乳幼児の思考やことばの発達と自我の芽生えへの影響を学ぶ。	講義	配布した資料を読んでおく。前講義の復習をする。	30分
3	幼児期の家族と遊び仲間の関係の育ちから自我の形成を学ぶ。	講義	配布した資料を読んでおく。前講義の復習をする。	30分
4	児童期の学校生活での仲間関係の育ちの様相と、アイデンティティ形成への影響を学ぶ。	講義	配布した資料を読んでおく。前講義の復習をする。	30分
5	青年期における自分らしさへの気づき、進路選択や恋愛等からアイデンティティの形成を学ぶ。	講義	配布した資料を読んでおく。前講義の復習をする。	30分
6	青年期におけるアイデンティティ形成の困難さについて、学校不適応、無気力(学習性無力感)、モラトリアム等の症状から学ぶ。	講義、討議	アイデンティティ形成困難な事例や事象を調べておく。	30分
7	成人期・高齢期におけるアイデンティティの再形成により、アイデンティティ形成と修正は生涯にわたる課題であることを学ぶ。	講義	配布した資料を読んでおく。前講義の復習をする。	30分
8	まとめ 各時期の自我の育ちやアイデンティティの形成についてまとめる。	講義	配布した資料を読んでおく。前講義の復習をする。	30分

リハビリテーション医療学専攻

【科目名】 キャリア形成とリハビリテーション心理学(産業・労働分野に関する理論と支援の展開)		【担当教員】 宮岡 里美	
【授業区分】 専門科目	【授業コード】 dbmH 135	(メールアドレス)	
【開講時期】 後期	【選択必修】 必修	miyaoka@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】 1	【コマ数】 8	(オフィスアワー) 平日12:40-13:30, 他研究室在室時	
<p>【注意事項】</p> <p>(受講者に関わる情報・履修条件)</p> <p>※本科目は「公認心理師」の受験資格を取得する上での指定科目で、「産業・労働分野に関する理論と支援の展開」について学びます。 他、心理学の専門領域以外の大学院全ての院生も受講可能です。健全な「キャリア形成」は生きていく上ですべての人に重要な課題であり、保健・医療・福祉に携わる者にはその適切な支援法も心得ておく必要があります。</p> <p>(受講のルールに関わる情報・予備知識)</p> <p>欠席する場合は事前連絡が望ましい。その場合は振替講義を検討します。 積極的態度で受講し、関心あるテーマは自身で情報収集して問題提起し、意見交換していく姿勢を望みます。 レポートや授業中に実施した心理テスト等のデータは、コメントを付して返却します。</p>			
<p>【講義概要】</p> <p>(目的)</p> <p>キャリア形成期の身体的・心理的・社会的特徴を概説していく。また、キャリア形成に関するストレス要因と対処法も検討していく。 特に、ハラスメント等の職場でのストレスとその対策、ワークライフバランスと過労死の予防、長期休業の実態とリワークへの復帰支援等にも言及していく。ストレスチェック等は演習形式で実施していく。併せて、障害者の就労支援にも触れていく。</p> <p>(方法)</p> <p>専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。 多くの人が、仕事とプライベートの生活が両立しにくい現実に直面しています。男女問わず誰もがやりがいや充実感を感じながら働き仕事上の責任を果たす一方で、子育てや親の介護に要する時間や、家庭・地域・自己啓発等に必要個人の自由な生活時間が持てることは生きていく上で重要なことです。この仕事と生活の調和を図るためにはどうすればよいのかを特に心理学的支援の側面から考えていきます。また、関連する労働法規等にも触れていきます。</p>			
<p>【一般教育目標(GIO)】</p> <p>ワークライフバランスを意識し、人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できることを理解する。</p>			
<p>【行動目標(SB0)】</p> <p>自身の働き方を熟考するのみでなく、教育・保健・医療・福祉現場等での対象者に対しても適切な就労への心理的支援ができる。 「職場における心の健康づくり～労働者の心の健康の保持増進のための指針～」を理解し、支援できる。 「治療と仕事の両立の支援」の趣旨を理解し、こころの健康支援ができる。</p>			
<p>【教科書・リザーブドブック】</p> <p>特に指定せず。資料は配布します。 関連法規等はその都度紹介していきます。</p>			
<p>【参考書】</p> <p>内閣府HP「仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)憲章」 厚生労働省「こころの健康_健康日本21(第二次)」 「職場における心の健康づくり」「治療と仕事の両立の支援」「仕事と生活の調和の実現に向けた取組の推進」等、関連する各種施策を参照のこと。</p>			
<p>【評価に関わる情報】</p> <p>(評価の基準・方法)</p> <p>本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。 受講態度20%、レポート80%の割合で評価する。出席点は評価に含めない。</p>			

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				80				20	100
評価指標	取り込む力・知識			80				20	100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	ライフサイクル観 成人期の発達課題 ・恋愛・結婚とキャリア形成 ライフコース 多様な価値観		多様な価値観を受け入れ、共に生きる社会の実現を考える。	15分
2	初期キャリアの形成 ・新社会人のストレス・女性の社会進出 男女雇用機会均等法 M字型カーブ ダイバーシティ		男女が共に協力し合う、一個人を社会全体で支えることは社会の発展に繋がることを理解する。	15分
3	職場・家庭のストレス・家庭生活と仕事・職場におけるメンタルヘルス ストレスチェック制度 ワークライフバランス 子育てとそのストレス		次世代の育成を家庭、職場の両面でバランスよく行うことを社会全体から検討する。	15分
4	働く環境の問題 安全・快適な職場環境づくり 労働安全衛生法 ハラスメント、過労死 パニック障害、うつ、自殺対策		職場の物的・人的環境が人の心身に及ぼす影響について考察する。	15分
5	キャリアの“停滞”への対応・長期休業の実態・職場復帰(リワーク)・治療と仕事の両立 リワーク制度、試し出勤 キャリアコンサルティング 労災障害年金制度		「労災」の定義から、労働環境と疾患発症の関係を考察する。また、その社会的支援法を理解する。	15分
6	職業・社会生活の変化 ・中年期危機 ・退職退職とアイデンティティ 心身の変化		「中年期危機」の要因を生物学的、社会的、心理的各側面から検討する。	15分
7	障害者の就労支援 ・障害の概説と就労支援のポイント 障害者雇用促進法 障害によるキャリア形成における困難 合理的配慮		障害による社会的バリアを可能な限り除去することを検討する。	15分
8	まとめ キャリア形成の軌跡と心の健康 事例検討		レポート課題 ・事例の検討と考察	120分

【科目名】 高齢期とリハビリテーション心理学(福祉分野に関する理論と支援の展開)		【担当教員】 宮岡 里美	
【授業区分】 専門科目	【授業コード】 dbmHs 209	(メールアドレス)	
【開講時期】 前期	【選択必修】 必修	miyaoka@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】 1	【コマ数】 8	(オフィスアワー) 平日12:40-13:30, 他研究室在室時	
【注意事項】			
(受講者に関わる情報・履修条件)			
<p>※本科目は「公認心理師」の受験資格を取得する上での指定科目で、「福祉分野に関する理論と支援の展開」について学びます。</p> <p>他、心理学の専門領域以外の大学院全ての院生も受講可能です。「高齢期の問題」は保健・医療・福祉領域で重要な課題です。</p>			
(受講のルールに関わる情報・予備知識)			
<p>欠席する場合は事前連絡が望ましい。その場合は振替講義を検討します。</p> <p>積極的態度で受講していただきたいです。関心あるテーマは自身で情報収集し、問題提起し、意見交換していく姿勢を望みます。</p> <p>当該科目と学位授与方針との関連性；専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。</p>			
【講義概要】			
(目的)			
<p>高齢期の心理社会的課題と必要な支援について講じていきます。高齢期の①認知機能及び感情・社会性の変化、②自己と他者の関係の在り方の変化について科学的知見に基づき説明いたします。その上で、超高齢社会の日本の現状や問題について考えていきます。</p> <p>高齢者の現状や問題は現代社会において非常に重要な課題です。幸福な一生涯を実現するために私たちはどのような支援をすべきなのかを各人の観点から熟考することを目的とします。</p>			
(方法)			
<p>Power Point スライドを使用しての講義が中心となります。</p> <p>毎回、講義スライド資料を配布します。関連資料がある場合にはそれも配布します。</p> <p>レポートや授業中に実施した心理テスト等のデータは、コメントを付して返却します。</p>			
【一般教育目標(GIO)】			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 高齢期の身体的変化の特徴を知る。 2. 高齢期における認知機能及び感情・社会性の変化、自己と他者のあり方の心理的变化の様相を知る。 3. 高齢期を「サクセスフル・エイジング」の観点からとらえていく。 4. 高齢期の危機及び障害について理解し、適切な支援ができる。 			
【行動目標(SB0)】			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 「サクセスフル・エイジング」を心身両面から支援できる。 2. 「補償を伴う選択的最適化理論」「死の受容」等の観点から、高齢者の心のケアができる。 3. 心理的危機の原因を内的要因(生物・心理的要因)と外的要因(社会・文化的要因)から考察できる。 4. 心理的危機に対して、適切なこころの支援ができる。 			
【教科書・リザーブドブック】			
特に指定せず、必要な資料は配布する。			
【参考書】			
<p>特に指定せず。高齢者福祉制度の「老人福祉法」「介護保険法」「障害者総合支援法」「生活保護法」等は配布する。</p> <p>中島健一(著,編),野島/繁榎(監)/第17巻 福祉心理学(公認心理師の基礎と実践)/遠見書房(2018/8/19)/¥2,860</p> <p>川畑・大島他(編・著)/福祉心理学(公認心理師の基本を学ぶテキスト 17)/ミネルヴァ書房(2020/5/25)/¥2,420</p>			
【評価に関わる情報】			
(評価の基準・方法)			
<p>本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。</p> <p>レポート80%、授業への参加態度20%の割合で評価する。出席点は評価に含めない。</p>			

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				80				20	100
評価指標	取り込む力・知識			80				20	100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	高齢社会の実態 ・平均寿命と健康寿命 ・介護予防☐老人福祉法 ・年齢階級別た受療率 ・「寝たきり」予防		高齢社会の実態を理解し、その社会活動への影響を多角的に説明できる。	15分
2	高齢期の身体機能・感覚機能・運動機能の変化 ・機能の低下が日常生活に及ぼす影響・機能低下の予防・高齢者の自動車運転・視・聴・味・嗅・触の各機能低下が、日常生活動作へ及ぼす影響。 ・脱水や食思不振の背景要因		生物学的に加齢が感覚・運動機能へ及ぼすさまざまな影響を知り、適切な対応を提言できる。	15分
3	高齢期の認知機能・知的機能/記憶機能の低下 高齢期のパーソナリティ・高齢期の人間関係/家族関係の変化・結晶性知能と流動性知能 ・社会的離脱・補償を伴う選択的最適化・生活の中での支援(家族関係調整等)		「高齢者」の問題行動の背景に知的機能や人格の変化が潜んでいることを説明できる。	15分
4	喪失体験と心のケア(社会的支援) ・うつ ・回想法 ・独居・孤独 ・ソーシャル・コンボイ		高齢者支援のための各地域での社会的資源を検索し、そのサービスを活用できる。	15分
5	高齢期の精神疾患とその予防 ・認知症とは ・認知症への対応 ・演習: MMSE, HDS-R ・共感的理解		認知症スクリーニングテストを実施でき、その評価に対する適切な対応ができる。	15分
6	高齢者の介護について ・介護者の心理 ・高齢者虐待☐ケア・マネジメント ・地域包括ケアシステム ・高齢者虐待防止法		高齢者虐待の介護者側の要因を知り、その予防のための方策を検討する。	15分
7	「死の受容」 ・キューブラ・ロス モデル ・上記の臨床応用・「二人称の死」の受容 ・自身の死の受容		「キューブラ・ロス モデル」での心理的变化の段階を理解し、受容れることができる。	15分
8	まとめ ・高齢者の社会参加・高齢者の就業支援と経済的自立☐QOL / well-being・サクセスフル・エイジング・年金、医療費の問題・高齢期の再就職、再学習支援		幸福な一生涯を実現するための最終ステージにおいて、私たちはどのような支援をすべきなのかを総括する。	15分

リハビリテーション医療学専攻

【科目名】	精神機能と生活障害のリハビリテーション心理学 (臨床)	【担当教員】	的場 已知子
【授業区分】	専門科目	【授業コード】	dbmh136
【開講時期】	後期	【選択必修】	選択
【単位数】	1	【コマ数】	8
【注意事項】			
<p>(受講者に関わる情報・履修条件)</p> <p>医療現場における心理学の要素を生かした実際の治療についてより深く学びます。</p> <p>(受講のルールに関わる情報・予備知識)</p> <p>守秘義務についての契約書の記入を求めます。受講者の目的(臨床イメージ)を明確に持って下さい。</p>			
【講義概要】			
<p>(目的)</p> <p>どのようにして個の機能の回復と共に精神機能の回復を促すべきかを学びます。 当該科目と学位授与方針等との関連性：専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。</p> <p>(方法)</p> <p>自分自身との対話が必要となるため、精神的な問題を抱える方は注意が必要です。 レポートにコメントを付して返却します。</p>			
【一般教育目標(GIO)】			
医療現場における心理学的アプローチの方法を理解すること。			
【行動目標(SBO)】			
自らの欠点を理解し、技術を向上すること。			
【教科書・リザーブドブック】			
公認心理師必携テキスト[学研プラス]			
【参考書】			
【評価に関わる情報】			
<p>(評価の基準・方法)</p> <p>成績評価基準は、本学学則・授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規程に従う。 レポート100%。</p>			

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				100					100
評価指標	取り込む力・知識			100					100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	精神機能と生活障害に対するリハビリテーションの真の目的を理解する まず自分を知ること。その上で他者へのアプローチの仕方を知る	講義	事前に配布する資料に解答しておくこと	220
2	精神機能と生活障害に対するリハビリテーションの介入時期について 介入する時期の違いによりアプローチの違い	講義	事前に配布する資料に目を通しておくこと	220
3	精神機能と生活障害に対するリハビリテーションにおける職種の違いの理解と応用	講義	事前に配布する資料に目を通しておくこと	220
4	心理リハビリの実践1 (事例1)	実際の現場でのワークショップを行います	事前に配布する資料に目を通しておくこと	220
5	心理リハビリの実践2 (事例2)	実際の現場でのワークショップを行います	事前に配布する資料に目を通しておくこと	220
6	心理リハビリの実践3 (事例3)	実際の現場でのワークショップを行います	事前に配布する資料に目を通しておくこと	220
7	心理リハビリの実践4 (事例4)	実際の現場でのワークショップを行います	事前に配布する資料に目を通しておくこと	220
8	総論	自ら選んだ事例に対してケースレポートをまとめてもらいます	事例を選んでおくこと	220

リハビリテーション医療学専攻

【科目名】 精神機能と生活障害のリハビリテーション心理学 (国際)		【担当教員】 的場 巳知子	
【授業区分】 専門科目	【授業コード】 dbmh137	(メールアドレス)	
【開講時期】 後期	【選択必修】 選択		
【単位数】 1	【コマ数】 8		
【注意事項】			
(受講者に関わる情報・履修条件) 精神機能と生活障害のリハビリテーション心理学 (臨床)を受講している方が望ましい。			
(受講のルールに関わる情報・予備知識) 守秘義務についての誓約書を求めます。 専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。			
【講義概要】			
(目的) 心理リハビリの国際的理解を深める。 学位授与の方針と当該授業科目の関連：専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。			
(方法) リハビリテーション心理学における国際的視点を身に付け、広いフィールドワークで活躍できる能力を培えるように。 試験・レポートのフィードバック方法：レポートにコメントを付して返却します。			
【一般教育目標(GIO)】 異文化に対する理解を深め、国際的に活躍できる能力を身につける。			
【行動目標(SBO)】 様々な障壁を乗り越えて行動する力を持つ。			
【教科書・リザーブドブック】 リハビリテーション心理学入門 [荘道社]			
【参考書】			
【評価に関わる情報】			
(評価の基準・方法) 成績評価基準は、本学学則・授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規程に従う。 レポート100%。			

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				100					100
評価指標	取り込む力・知識			100					100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	国際的リハビリテーション心理 (アジア) 中国、台湾	講義	配布資料に目を通す	220
2	国際的リハビリテーション心理 (アジア) 韓国	講義	配布資料に目を通す	220
3	国際的リハビリテーション心理 (ヨーロッパ) フランス	講義	配布資料に目を通す	220
4	国際的リハビリテーション心理 (ヨーロッパ) スイス	講義	配布資料に目を通す	220
5	国際的リハビリテーション心理 (ヨーロッパ) イギリス	講義	配布資料に目を通す	220
6	国際的リハビリテーション心理 (アメリカ他) アメリカ、カナダ	講義	配布資料に目を通す	220
7	国際的リハビリテーション心理におけるジェンダーの問題 国際社会におけるジェンダーや様々な壁について	講義	配布資料に目を通す	220
8	総論 レポートをまとめ、評価を行う。	講義	レポートをまとめること	220

リハビリテーション医療学専攻

【科目名】 疾病と障害の共存とリハビリテーション心理学(保健医療分野に関する理論と支援の展開)		【担当教員】 中川 明仁	
【授業区分】 専門科目	【授業コード】 dbmH138	(メールアドレス)	
【開講時期】 後期	【選択必修】 必修	a.nakagawa@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】 1	【コマ数】 8	(オフィスアワー)	
<p>【注意事項】</p> <p>(受講者に関わる情報・履修条件)</p> <p>本科目は、実務経験のある教員による授業科目です。医療機関でチーム医療のメンバーとして生活習慣病への心理的介入を実践してきた経験を基に保健医療領域において心理職に求められる役割や知識および技術について学ぶ。 本科目は、認定心理士資格申請要件の一つであり、産業カウンセラーまたは公認心理師の受験資格を取得する上での指定科目となっています。</p> <p>(受講のルールに関わる情報・予備知識)</p> <p>毎回資料を配付します。授業内で実施した課題については他に支障がない限り返却します。事例検討やプレゼンテーション等、学生の皆さんが主体となって展開される授業ですので積極的な参加を求めます。</p>			
<p>【講義概要】</p> <p>(目的)</p> <p>保健医療領域において求められる心理職の役割、知識および技術について学ぶことを目的とする。 当該科目と学位授与方針等との関連性：専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。</p> <p>(方法)</p> <p>授業中に実施した課題については個別にコメントを付すか授業中に全体的に解説を行います。</p>			
<p>【一般教育目標(GIO)】</p> <p>保健医療領域における心理職の支援のあり方および他職種との連携について理解できる。</p> <p>【行動目標(SB0)】</p> <p>保健医療領域における心理職の役割について説明できる。 保健医療領域において支援を実践する上で必要な知識や技術について説明できる。</p>			
<p>【教科書・リザーブドブック】</p> <p>授業中の配付資料</p>			
<p>【参考書】</p> <p>野島 和彦 (監) / 公認心理師分野別テキスト①保健医療分野 理論と支援の展開 / 創元社 / 2019年 / 2,400円 + 税</p>			
<p>【評価に関わる情報】</p> <p>(評価の基準・方法)</p> <p>成績評価基準は、本学学則・授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規程に従う。 授業中課題 (レポート)、論文講読の成果発表を通じて総合的に評価する。</p>			

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				40	40			20	100
評価 指標	取り込む力・知識			20	15				35
	思考・推論・創造の力			20	15				35
	コラボレーションとリーダーシップ								0
	発表力				10				10
	学修に取り組む姿勢							20	20

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	・ガイダンス ・公認心理師法について 公認心理師の業務、信用失墜行為の禁止、秘密保持義務等	講義	公認心理師法について調べてみる	220
2	・保健医療分野におけるチーム医療の実践(1) 精神科、心療内科領域	講義・討論	講義プリントの復習 精神科や心療内科においてどのような職種がどのような役割で患者支援に携わっているのか理解する。	220
3	・保健医療分野におけるチーム医療の実践(2) 内科領域	講義・討論	講義プリントの復習 内科においてどのような職種がどのような役割で患者支援に携わっているのか理解する。	220
4	・保健医療分野における心理アセスメント パーソナリティ特性、抑うつ、不安の評価	講義・討論	講義プリントの復習 患者理解および支援のツールとしての心理検査について理解する。	220
5	・保健医療分野の事例検討(1) 発達段階の理解と子育て支援	講義・討論	講義プリントの復習 乳幼児支援における心理職の役割について事例検討を通して理解する。	220
6	・保健医療分野の事例検討(2) うつ病の理解と支援	講義・討論	講義プリントの復習 発達障害の病態および病態に合わせた支援のあり方について事例検討を通して理解する。	220
7	・保健医療分野の事例検討(3) 生活習慣病の理解と支援 主に糖尿病患者への支援	講義・討論	講義プリントの復習 糖尿病の病態および糖尿病患者特有の心理について学び、支援のあり方を理解する。	220
8	・保健医療分野の事例検討(4) 生活習慣病の理解と支援 主に肥満者への支援	講義・討論	講義プリントの復習 肥満の病態および肥満者特有の心理について学び、支援のあり方を理解する。	220

【科目名】 心理アセスメント特論(心理的アセスメントに関する理論と実践)		【担当教員】 和田 剛宗	
【授業区分】 専門科目	【授業コード】 dbmH 210	(メールアドレス)	
【開講時期】 前期	【選択必修】 必修	y.wada@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】 2	【コマ数】 15	(オフィスアワー) 12:50~13:20 (月-水・金)	
<p>【注意事項】</p> <p>(受講者に関わる情報・履修条件)</p> <p>学部において公認心理師養成カリキュラムを履修していると、本講義の内容の理解が深まります。レポートへのフィードバックは個別に対応します。担当教員へご連絡ください。</p> <p>(受講のルールに関わる情報・予備知識)</p> <p>学部レベルでの心理的アセスメントの知識及び理解を前提としています。不足している場合は、心理的アセスメントに関する基本書を読むなどして各自で補ってください。積極的な参加姿勢を期待します。</p>			
<p>【講義概要】</p> <p>(目的)</p> <p>この科目は、公認心理師養成のための必修科目である。以下の①～③を中心に、公認心理師として必要なトピックを理解する。</p> <p>①公認心理師の実践における心理的アセスメントの意義 ②心理的アセスメントに関する理論と方法 ③上記2つの心理に関する相談、助言、指導等への応用</p> <p>(方法)</p> <p>資料の講読、ディスカッション、実技を行います。臨床場面で多く利用されている代表的な心理検査を通して、心理アセスメントについての造詣を深めます。</p>			
<p>【一般教育目標(GIO)】</p> <p>公認心理師の実践における心理的アセスメントの意義を理解する。 心理的アセスメントに関する理論と方法を理解する。</p>			
<p>【行動目標(SB0)】</p> <p>公認心理師の実践における心理的アセスメントの意義・理論・方法を説明できる。 また、理論や方法を、心理に関する相談・助言・指導等へ応用できる。</p>			
<p>【教科書・リザーブドブック】</p> <p>中村紀子 『ロールシャッハ・テスト講義Ⅰ 基礎篇』 金剛出版 (4,200円+税) 中村紀子 『ロールシャッハ・テスト講義Ⅱ 解釈篇』 金剛出版 (4,200円+税)</p>			
<p>【参考書】</p> <p>津川律子 『精神科臨床における心理アセスメント入門』 金剛出版 (2,600円+税) 津川律子 『面接技術としての心理アセスメント』 金剛出版 (3,000円+税) ジョン・E・エクスナー著 中村紀子・野田昌道監訳 『ロールシャッハ・テスト』 金剛出版 (19,800円)</p>			
<p>【評価に関わる情報】</p> <p>(評価の基準・方法)</p> <p>本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。 レポート50%、授業への取り組み姿勢50%の割合で評価する。</p>			

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				50				50	100
評価 指標	取り込む力・知識			50				50	100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1-3	心理的アセスメントの意義・目的・方法 所見の書き方	講義・演習	授業内容の振り返り	660分
4-8	知能検査 ウェクスラー式知能検査	講義・演習	授業内容の振り返り	1100分
9-13	パーソナリティ検査 投影法) ロールシャッハ・テスト	講義・演習	授業内容の振り返り	1100分
14-15	複数のアセスメント方法の組み方 フィードバックの工夫	講義・演習	授業内容の振り返り	440分

【科目名】 サイコセラピー特論(心理支援に関する理論と実践)		【担当教員】 和田 剛宗	
【授業区分】 専門科目	【授業コード】 dbmH 211	(メールアドレス)	
【開講時期】 前期	【選択必修】 必修	y.wada@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】 2	【コマ数】 15	(オフィスアワー) 12:50-13:20(月・水-金)	
<p>【注意事項】</p> <p>(受講者に関わる情報・履修条件)</p> <p>学部において公認心理師養成カリキュラムを履修していると、本講義の内容について理解が深まります。レポートへのフィードバックは個別に対応いたします。担当教員へご連絡ください。</p> <p>(受講のルールに関わる情報・予備知識)</p> <p>本講義では、毎回資料を読んでディスカッションを行っていただきます。積極的な参加姿勢を期待します。講義中に文献を紹介するので、購入もしくは図書館で借りるなどして読んでください。本講義で取り扱うアプローチについては先入観を脇に置き、それぞれの違いを理解しながら学び進めてください。</p>			
<p>【講義概要】</p> <p>(目的)</p> <p>この科目は公認心理師養成のための必修科目である。以下の①～⑤を中心に、公認心理師として必要な事項を理解する。 ①力動論や対人関係論に基づく心理療法の理論と方法 ②来談者中心論に基づく心理療法の理論と方法 ③行動論・認知論に基づく心理療法の理論と方法 ④非言語的なアプローチに基づく心理療法の理論と方法 ⑤心理に関する相談、助言、指導等への上記4つのアプローチの応用 ⑥心理に関する支援を要する者の特性や状況に応じた適切な支援方法の選択・調整</p> <p>(方法)</p> <p>資料の講読、演習、ディスカッションを行います。</p>			
<p>【一般教育目標(GIO)】</p> <p>力動論や対人関係論、来談者中心論、行動論・認知論、非言語的なアプローチに基づく心理療法の理論と方法を理解する。専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。</p>			
<p>【行動目標(SB0)】</p> <p>力動論や対人関係論、来談者中心論、行動論・認知論、非言語的なアプローチに基づく心理療法の理論と方法を説明できる。心理に関する支援を要する者の特性や状況に応じた適切な支援方法の選択・調整ができる。</p>			
<p>【教科書・リザーブドブック】</p> <p>毎回、資料を配布する。</p>			
<p>【参考書】</p> <p>乾吉佑・氏原寛・亀口憲治・成田善弘・東山紘久・山中康裕 編 『心理療法ハンドブック』 創元社 (3,500円+税)</p>			
<p>【評価に関わる情報】</p> <p>(評価の基準・方法)</p> <p>本学学則、授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則に従う。レポート50%、授業への取り組み50%の割合で評価する。</p>			

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				50		50			100
評価指標	取り込む力・知識			50		50			100
	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	心理面接の基本姿勢	講義・演習	授業内容の振り返り 関連する文献を読む	220
2	インテーク面接	講義・演習	授業内容の振り返り 関連する文献を読む	220
3	力動論や対人関係論に基づく心理療法の理論と方法とその応用① 精神分析的心理療法など	講義・演習	授業内容の振り返り 関連する文献を読む	220
4	力動論や対人関係論に基づく心理療法の理論と方法とその応用② 対人関係療法	講義・演習	授業内容の振り返り 関連する文献を読む	220
5-6	来談者中心論に基づく心理療法の理論と方法とその応用① 動機づけ面接	講義・演習	授業内容の振り返り 関連する文献を読む	440
7-10	行動論・認知論に基づく心理療法の理論と方法とその応用① 行動療法、認知療法、認知・行動療法の歴史的展開とその方法	講義・演習	授業内容の振り返り 関連する文献を読む	880
11	非言語的なアプローチに基づく心理療法の理論と方法とその応用① 遊戯療法	講義・演習	授業内容の振り返り 関連する文献を読む	220
12	非言語的なアプローチに基づく心理療法の理論と方法とその応用② グループ療法	講義・演習	授業内容の振り返り 関連する文献を読む	220

【科目名】		アートセラピー特論		【担当教員】	的場 已知子
【授業区分】	専門科目	【授業コード】	dbmh212	(メールアドレス) (オフィスアワー) メールにて対応	
【開講時期】	前期	【選択必修】	選択		
【単位数】	1	【コマ数】	8		
【注意事項】					
(受講者に関わる情報・履修条件) 特に芸術的な能力や経験の有無は問いません。					
(受講のルールに関わる情報・予備知識) 経験の有無を事前にお知らせください。					
【講義概要】					
(目的) 1杯の茶を喫する癒しは世界共通の文化である。茶道はその人の「生」に深く結びつきながら芸術へと昇華される1面を持つ。茶道という枠を通して、人との距離、非言語的対話や癒す心などを学び、日常の診療に活用できるように指導する。 当該科目と学位授与方針等との関連性：専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う					
(方法) 試験・レポートのフィードバック方法：レポートにコメントを付して返却します。					
【一般教育目標(GIO)】 芸術療法の根幹である非言語的コミュニケーションを理解し、心理的な介入技術の基礎を身につける。					
【行動目標(SBO)】 芸術療法を自ら実践することができるようになる。					
【教科書・リザーブドブック】 芸術療法 [日本評論社]					
【参考書】					
【評価に関わる情報】					
(評価の基準・方法) 受講態度80%、レポート20%。					

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				20				80	100
評価指標	取り込む力・知識			20				80	100
	思考・推論・創造の力								0
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	所作を聴く 茶道の基本的な動作を学びながら、5感を働かせる技術を学ぶ。	講義、グループワーク、実習	基本的な動作を繰り返し自習し、身につけること。 気づいたことを書き留めること。	220
2	結界を表象する 茶道を通して、空間のありかたについて学び、対人距離を学習する。	講義、グループワーク、実習	基本的な動作を繰り返し自習し、身につけること。 気づいたことを書き留めること。	220
3	心でもてなす 客を迎える心に触れ、自分を客観的に見つめる技術、相対する者への接し方を考える。	講義、グループワーク、実習	自分の在り方を顧みて、客観的にまとめてみる。	220
4	つかえる心 茶を点て、差し上げる喜びは、つかえる行為であり、自身の喜びにつなげる。	講義、グループワーク、実習	芸術療法を通じた医療行為とはどういうことかを考えてみる。	220
5	倦怠を癒す 息詰まった時の茶道での癒し方を学ぶ。	講義、グループワーク、実習	自分なりに日常に癒しを見立ててみる。	220
6	間合いを遅くする 話し言葉とは異なる間合いを知ることによって、自分と他者の心を調整する。	講義、グループワーク、実習	自分のリズムを振り返ってみる。	220
7	時を味方につける 1日の時の流れ、季節など移り行く時を取り入れて、場を作り出す心を学ぶ。	講義、グループワーク、実習	四季に目を向け、日常に取り入れてみる。	220
8	そなえる心 技術ばかりを追い求め、すがることなく、行為そのものの主体性や心境に自由を見失わないために必要な心構えを学ぶ。	講義、グループワーク、実習	レポートの作成と提出。	220

リハビリテーション医療学専攻

【科目名】 支援コミュニケーション特論(産業・労働分野に関する理論と支援の展開)		【担当教員】 大矢 薫	
【授業区分】 専門科目	【授業コード】 dbmH213	(メールアドレス)	
【開講時期】 前期	【選択必修】 必修	ohya@nur05.onmicrosoft.com	
【単位数】 1	【コマ数】 8	(オフィスアワー) 12:50-13:30 (月・水～金)	
<p>【注意事項】</p> <p>(受講者に関わる情報・履修条件)</p> <p>学部において公認心理師養成カリキュラムを履修していると、本講義の内容の理解が深まります。</p> <p>(受講のルールに関わる情報・予備知識)</p> <p>本講義では、毎回配布資料を読んでディスカッション・ディベートを行っていただきます。積極的な参加姿勢を期待します。講義中に関連する文献を紹介するので、購入もしくは図書館で借りるなどして読んでください。</p>			
<p>【講義概要】</p> <p>(目的)</p> <p>この科目は公認心理師養成のための必修科目である。産業・労働分野に関わる公認心理師の実践を中心に、公認心理師として必要なトピックを理解する。当該科目と学位授与方針等との関連性：「専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う。」</p> <p>(方法)</p> <p>毎回配布資料を読んでディスカッション・ディベートを行います。レポートに対するフィードバックは個別に対応いたしますので、担当教員へご連絡ください。</p>			
<p>【一般教育目標(GIO)】</p> <p>産業・労働分野に関わる公認心理師の実践を理解する。</p> <p>【行動目標(SB0)】</p> <p>産業・労働分野に関わる公認心理師の実践を説明できる。</p>			
<p>【教科書・リザーブドブック】</p> <p>毎回、プリントや資料を配布する。</p>			
<p>【参考書】</p> <p>新田泰生 編 『産業・組織心理学』 遠見書房 (2,600円+税)</p> <p>加藤容子・三宅美樹 編 『産業・組織心理学』 ミネルヴァ書房 (2,200円+税)</p>			
<p>【評価に関わる情報】</p> <p>(評価の基準・方法)</p> <p>成績評価基準は、本学学則・授業科目の履修方法・試験・評価規程およびその施行細則、大学院GPAに関する規程に従う。成績評価は、レポート50%、授業内でのディスカッション・ディベート50%の割合で評価する。</p>			

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				50		50			100
評価 指標	取り込む力・知識			20		10			30
	思考・推論・創造の力			30		20			50
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力					20			20
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	産業・労働分野に関わる公認心理師の実践 産業・労働分野における公認心理師の役割	講義 討議	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
2	産業・労働分野に関わる公認心理師の実践 リーダーシップ	講義 討議	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
3	産業・労働分野に関わる公認心理師の実践 安全文化	講義 討議	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
4	産業・労働分野に関わる公認心理師の実践 動機づけ理論	講義 討議	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
5	産業・労働分野に関わる公認心理師の実践 組織風土と文化	講義 討議	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
6	産業・労働分野に関わる公認心理師の実践 アセスメント	講義 討議	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
7	産業・労働分野に関わる公認心理師の実践 カウンセリング	講義 討議	【予習】 関連する文献を読む 【復習】 授業内容の振り返り	240
8	産業・労働分野に関わる公認心理師の実践 コンサルテーション	講義 討議	【復習】 授業内容の振り返り 【課題】 レポート作成	240

【科目名】	言語聴覚障害学総論		【担当教員】	高橋 圭三
【授業区分】	専門科目	【授業コード】	dbmhS161	(メールアドレス)
【開講時期】	前期	【選択必修】	必修	takahashik@nur05.onmicrosoft.com
【単位数】	2	【コマ数】	15	(オフィスアワー) 平日木曜以外の16:50～
【注意事項】				
(受講者に関わる情報・履修条件)				
この科目は、言語聴覚障がいに関する種類、対象、原因、援助方法などを広く学ぶための構成になっている。よって、言語聴覚士や言語聴覚障害に関する概要を理解するものとして、言語聴覚士国家試験受験予定者だけでなく、他のコースの方も受講できるものとなっている。				
(受講のルールに関わる情報・予備知識)				
講義でDVDを見る機会があり、遠方の方で、こちらに来れない場合は、自宅でDVDを借りて見てもらうことがあります。その他は、スライドを中心に講義を行います。				
【講義概要】				
(目的)				
言語聴覚士の職務内容や職業倫理、対象患者などの理解を深める。人間がコミュニケーションをとるための聴覚や発声・発語に関する生理学的側面、また記憶や思考といった高次脳機能に関する側面、さらにそれらの機能を障害することによる様々な言語障害に対する知識を包括的に学ぶ。 当該科目と学位授与方針等との関連性：専門領域を超えて深く問題を探求する姿勢を培う				
(方法)				
スライドを中心に講義を行います。DVDをみることもあります。必要に応じてグループで討論することもあります。サテライトなど、webで受講する場合は1人で考えてもらいます。 ・レポートはコメントを付して返却します。 ・専門領域に関する多様な課題を発見分析し、自ら解決する能力を培う				
【一般教育目標(GIO)】				
言語聴覚障がいに関する種類、対象、原因、援助方法などを広く学ぶ。また、特に言語聴覚士に関する、言語聴覚療法、法律、歴史、職業倫理などについても学ぶ。				
【行動目標(SB0)】				
<ul style="list-style-type: none"> ・言語聴覚障害の種類、対象、原因、援助方法を説明できる。 ・言語聴覚士に関する言語聴覚療法、法律、歴史、職業倫理について説明できる。 ・言語聴覚士に必要な態度について理解を深める。 				
【教科書・リザーブドブック】				
特にございませぬ。				
【参考書】				
藤田郁代 監修『標準言語聴覚障害学 言語聴覚障害学概論』 医学書院, 2010年 ¥5,000 (税別) 熊倉勇美, 種村純 編集『やさしく学べる 言語聴覚障害入門』永井書店, 2011年. ¥5,000 (税別)				
【評価に関わる情報】				
(評価の基準・方法)				
<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価基準は、本学学則規程のGPA制度に従う。 ・成績評価は、レポートの達成度100%とする。 				

【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポート フォリオ	その他	合計 (%)
総合評価割合				100					100
評価 指標	取り込む力・知識			80					80
	思考・推論・創造の力			20					20
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								

【授業日程と内容】				
回数	講義内容	授業の運営方法 (講義・演習、教 員、教室など)	学修課題(予習・復習)	時間 (分)
1	オリエンテーション、 言語聴覚士、言語聴覚障害とは	講義	講義の復習 レポート作成	220分
2	言語聴覚障害学の種類、対象、原因	講義	講義の復習 レポート作成	220分
3	言語聴覚士の歴史	講義	講義の復習 レポート作成	220分
4	言語聴覚療法とは	講義	講義の復習 レポート作成	220分
5	言語聴覚療法の流れ	講義	講義の復習 レポート作成	220分
6	言語聴覚士に関する法律	講義	講義の復習 レポート作成	220分
7	言語聴覚士に関する職業倫理	講義	講義の復習 レポート作成	220分
8	言語聴覚療法に関する映画鑑賞	映画鑑賞	レポート作成 吃音や映画内に出てきたSTなどの役 割について学習する	220分

9	言語聴覚療法に関する映画鑑賞	映画鑑賞 感想文作成	レポート作成 吃音や映画内に出てきたSTなどの役割について学習する	220分
10	成人分野の言語聴覚療法	講義	講義の復習 レポート作成	220分
11	摂食嚥下障害	講義	講義の復習 レポート作成	220分
12	小児分野の言語聴覚療法	講義	講義の復習 レポート作成	220分
13	実際の言語聴覚療法	講義	講義の復習 レポート作成	220分
14	実際の言語聴覚療法	講義	講義の復習 レポート作成	220分
15	まとめ レポート作成	講義 レポート作成	講義の復習 レポート作成	220分